茨城県立多賀学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 　生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 　生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 　言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理国語	2	全日制・普通科・3学年	新　論理国語（三省堂）

科目の目標	（1） 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。（知識及び技能） （2） 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） （3） 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月 2週 ～ 5月 2週	5 信頼性を吟味するために 「情報の内容を吟味する」 「なぜ私たちは労働するのか」 「「すべり台社会」と”溜め”」	B読むこと	7	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 エ　文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。 ≪情報の扱い方≫ イ　情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。	小テスト 定期考査の素点	1 若者の勤労意識に関する調査結果を読んで、考えを述べ合う。 2 「『やりがいのある仕事』という言葉は、年長世代と若者世代の間では語義を異にしている」（171・5）とあるがどういうことか、整理しよう。 3 「受験勉強とバイトという二種類の『ワーク』の経験から導きだした労働観」（173・14）とはどのようなものか。それぞれ説明する。 4 筆者の考える「労働の本質」（174・14）とはどういうことか、まとめる。 5 「すべり台社会」（178・2）とは具体的にどういうことか、まとめる。 6 「〝溜め〟という言葉で語ってきた」（183・1）とあるが「〝溜め〟」とは何か、整理する。 7 アマルティア・センの引用は筆者の論点にどのような効果をもたらしているか、具体的に説明する。	エ　同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ ウ　主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。 オ　関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。 キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
5月 3週 ～ 6月 2週	5 信頼性を吟味するために 「投書を書く」	A書くこと	6	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	小テスト 定期考査の素点	1 主張を支える論拠として情報の妥当性や信頼性を吟味し、投書を書く。 2 読み手にわかりやすい表現の工夫をまとめる。	イ　設定した題材について、分析した内容を報告文などにまとめたり、仮説を立てて考察した内容を意見文などにまとめたりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］カ　書くこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪書く≫ イ　情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
6月 3週 ～ 7月 4週	6 隠れた前提を探すために 「地球上の「旅人」」 「誰かの靴を履いてみること」 「スポーツとナショナリズム	B読むこと	7	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ ア　言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。 イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ≪情報の扱い方≫ ウ　推論の仕方について理解を深め使うこと。	小テスト 定期考査の素点	1 「私にとってはどこもかしこも『アウェイ』……、それが実は心地よい。」（202・7～8）とあるが、なぜそのように考えるのか。筆者の幼少期の体験を整理しながら説明する。 2 筆者の考える「地球上の『旅人』」（205・11）とはどのように生きる人か、まとめる。 3 「誰かの靴を履いてみること」（210・5）とはどういうことか、まとめる。 4 「息子」との会話が本文にどのような効果をもたらしているか、まとめる。 5 「十一歳の子どもたちがエンパシーについて学んでいるというのは特筆に値する」（213・12）と述べる筆者の思いを説明する。 6 「このようにオリンピックや……見いだされる。」（218・2.3）とあるが、「スポーツとナショナリズムとの密接な関係」とはどういうことか。本文の具体例に基づいて説明する。 7 スポーツにおけるナショナリズムが「『野蛮化』に結びつく危うさを常に持ち合わせている」（222・14）のはなぜか。その理由を説明する。	エ　同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。	英語コミュニケーションⅡ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ ウ　主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。 オ　関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。 キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。	成果物の確認（ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 推論の仕方について理解を深め、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとすること。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			

9月 1週 ～ 9月 3週	7 具体と抽象の関係を理解するために 「人類による環境への影響」 「この十年をどう生きるか」 「プラスチックごみについて考える」	B読むこと	12	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ 　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（(1)イ）	小テスト 定期考査の素点	○「生態系の跳躍的変化によるカタストロフを避ける」（247・4）ためにはどのようなことが必要だろうか、話し合う。 ○「プラスチックごみ問題」に関わるデータをもとに、自分の意見を表明する。 ○想定した反論をふまえ、より説得力のある文章に書き換える。	ア　論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりする活動。	「人類による環境への影響」 「この十年をどう生きるか」 「プラスチックごみについて考える」 英語コミュニケーションⅢ［思考力・判断力・表現力］ウ　読むこと（ア）
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ 　文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。（（B）イ） 　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。　（（B）キ）	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　作品とその原作との読み比べを通して、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ中で、自らの学習を調整しようとしている。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
9月 4週 ～ 11月 1週	7 具体と抽象の関係を理解するために 「説得力のある文章を書く」	A書くこと	8	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ 　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（１）イ）	小テスト 定期考査の素点	○多面的・多角的な視点から文章を見直す。 ○想定した反論をふまえ、より説得力のある文章に書き換える。	エ　設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。	「説得力のある文章を書く」 論理・表現Ⅲ［思考力・判断力・表現力］エ　書くこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪書く≫ 　文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。（（A）カ）	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　作品とその原作との読み比べを通して、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ中で、自らの学習を調整しようとしている。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
11月 2週 ～ 12月 1週	8 批評するために 「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 「言語ゲームと哲学的感度」 「日本マンガのブルーオーシャン戦略」	B読むこと	11	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ 　文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。（（１）ウ）	小テスト 定期考査の素点	○筆者は〈自動車〉と〈映像〉が「二十世紀の社会を作った」（280・1）と述べているが、現代の社会を作りあげたものとして他にどのようなものがあるか。具体例をあげ、その功罪を指摘する。 ○「このマンガのほんとうのおもしろさ」（287・3）とは何か、まとめる。 ○「戦後日本の出版社がマンガの展開にとってきた手法」（293・15）が「ブルーオーシャン戦略」であると言える根拠を整理する。	イ　社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み、それらの内容を基に、自分の考えを論述したり討論したりする活動。	「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 「言語ゲームと哲学的感度」 「日本マンガのブルーオーシャン戦略」 数学Ⅰ（４）データの分析ア（ア）
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ 　文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。（（B）エ）	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　作品とその原作との読み比べを通して、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ中で、自らの学習を調整しようとしている。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
12月 1週 ～ 1月 2週	10 解釈を広げたり深めたりするために 「科学には限界があるか」 「未来のありか」 「リスク社会論」	B読むこと	11	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ 　文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。（（1）エ）	小テスト 定期考査の素点	○「科学の本質的な部分が事実の確認と、諸事実の間の関連を表す法則の定立にある」（357・7）とはどういうことか、まとめる。 ○「〝未来〟はそのようにして、現在時の中に存在することができる」（365・4）とはどういうことか、説明する。 ○　「『知』と『倫理的・政治的決定』との間の断絶があからさまなものになってしまう」（376・3）のはなぜか、説明する。	オ　関心をもった事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書や短い論文などにまとめたりする活動。	「科学には限界があるか」 「未来のありか」 「リスク社会論」
				②　思考・判断・表現 ≪読む≫ 　文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。（（B）エ）	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 作品とその原作との読み比べを通して、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ中で、自らの学習を調整しようとしている。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			
1月 2週 ～ 1月 4週	「自己推薦文を書く」	A書くこと	8	①　知識・技能 ≪言葉の特徴や使い方≫ 　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（(1)イ）	小テスト 定期考査の素点	○志望理由書を分析し、何を書いていくことが求められるか考える。 ○分析したことをもとに、構成メモを作る。 ○メモをもとによりよい志望理由書にする。	エ　設定した題材について多様な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。	「自己推薦文を書く」 論理・表現Ⅲ［思考力・判断力・表現力］エ　書くこと（イ）
				②　思考・判断・表現 ≪書く≫ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。（（A）オ）	成果物の確認 （ワークシートの内容評価）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 作品とその原作との読み比べを通して、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ中で、自らの学習を調整しようとしている。	振り返りシートの内容評価 単元シートの見通しと振り返りの記入内容確認			

領域ごとの時間数の計	話すこと･聞くこと	
	書くこと	22
	読むこと	48
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
文学国語	2	全日制・普通科・3学年	『新　文学国語』(三省堂)

科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月 2週 ～ 5月 1週	8　想像と創造 文学の想像力を捉える 「月火水木金土日」 「源氏物語-北山の垣間見」 「想像への畏敬-大和路をゆく」	B読むこと	10	①　知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。（（1）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	○「籠おばさん」の出現から別れまで、「わたし」はどう変化していったか、まとめる。 ○作中に登場する人物相互の関係を、光君（光源氏）を中心とした人物相関図に表す。 ○筆者を日本の古典文学へと駆り立てているものは何か、考える。	作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。 （関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ(2)ア）	「月火水木金土日」（川上弘美） 「源氏物語」（紫式部、訳・角田光代） 「想像への畏敬」（リービ英雄） 英語コミュニケーションⅢにおける[思考力・判断力・表現力]（2）ウとの関連
				②　思考・判断・表現 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（1）キ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			
5月 2週 ～ 5月 4週	表現プラザ5 表現の宝さがし 「ことばの不思議」	A書くこと	10	①　知識・技能 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。（（1）エ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	○自作の短歌・俳句を読み合い、よりよい表現を探る。	自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。 （関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ａ(2)ア）	論理・表現Ⅱにおける[思考力・判断力・表現力]（3）エ書くこと(イ)との関連
				②　思考・判断・表現 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。（Ａ（1）ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			
6月 1週 ～ 7月 1週	9　作品の変貌 言語文化の可能性を追求する 「鞄」 「竹取物語-かぐや姫の昇天」 「ピクニックの準備」 「映画『夜のピクニック』」	B読むこと	10	①　知識・技能 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。（（1）ウ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	○「鞄」に対する「私」の見方は、どのように変化していったか、物語の進行にそって整理する。 ○「翁」と「かぐや姫」のそれぞれの思いは、どのようにすれ違っているか、考えを文章にまとめる。 ○小説「ピクニックの準備」は、登場人物のどんな状況や心理を描いているか、考える。	演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して、批評文や紹介文などをまとめる活動。 （関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ(2)エ）	「鞄」（阿部公房） 「竹取物語」（訳・森見登美彦） 「ピクニックの準備」（恩田陸） 英語コミュニケーションⅢにおける[思考力・判断力・表現力]（2）アとの関連
				②　思考・判断・表現 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（1）キ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			

7月 2週 ～ 7月 4週	表現プラザ6 言葉でスケッチ 「ミュシャ、ゴッホ、河鍋暁斎、モネの絵画作品」	A書くこと	10	①　知識・技能 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。((１)ウ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	○絵画からよみとったことを言葉で描写し、相互に論評する。	自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。 （関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ａ(2)ア）	美術Ⅰにおける「Ｂ　鑑賞」（１）ア(ア)との関連
				②　思考・判断・表現 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。（Ａ（１）エ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			
9月 1週 ～ 10月 1週	10　文学の普遍性① 時代を越えて生きる古典文学を温ねる 「雨月物語−浅茅や宿」 「方丈記−養和の飢饉・大地震」 「古潭」 「『虫めづる姫君』の観察眼」 「調査・探究型小論文を書く」	B読むこと	10	①　知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。((２)ア) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。((２)イ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	○勝四郎はもともとどのような人物であったか、またそれが、どんなできごとをきっかけとして、どう変化していったか、考える。 ○古典の作品に自然災害に関する叙述が残されていることには、どんな意義があるのかを考える。 ○桃源郷を、「道筋と入口」「景観・環境」「人々の生活と心情」「戦乱」「外界との交渉」などの視点からみると、陶淵明はどんな世界として描いているか、まとめる。また、そのような世界を描いたのはどんな思いからであったと想像できるか、考える。 ○ 「虫めづる姫君」を現代に生きる価値のあるものとしてみているのは、筆者のどのような考えからか。まとめる。 ○「古典文学」を対象に研究テーマを決め、調査し、自分の考えを述べる。	作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりする活動。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ(2)カ）	「雨月物語」（上田秋成、訳・石川淳） 「方丈記」（鴨長明、訳・三木卓） 「古潭」（茨木のり子） 「『虫めづる姫君』の観察眼」（中村桂子） 日本史探究における「Ｂ中世の日本と世界」（３）イ(イ)との関連
				②　思考・判断・表現 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。（Ｂ（１）オ） 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（１）カ） 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（１）キ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			
10月 2週 ～ 11月 4週	11 文学の普遍性② 空間を越えて生きる翻訳文学の価値を見つける 「星の王子さま」 「藤野先生」 「ナガサキの郵便配達」 「卵を抱きながら。もしくは、くせになる翻訳。」 「意見・主張型小論文を書く」	B読むこと	10	①　知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。((２)ア) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。((２)イ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	○ 「かんじんなことは、目には見えない」（379上・4）という言葉は、何を伝えようとしているか、また、人間の世界をどのように見ていると考えられるか、考えをまとめる。 ○「この時この場所で私の考えは変わった」（384下・8）とあるが、「この時」と「この場所」についてまとめる。そのうえで、「私の考え」の変化を説明する。 ○イギリス人ジャーナリストである筆者をこの作品に向かわせた原動力は何だったのか、考える。 ○今までに読んだ翻訳作品とその印象について交流する。 ○「翻訳文学」を対象として、根拠を明示しながら提起された問題に対する自分の意見や主張を述べる。	作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。 （関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ(2)ア）	「星の王子さま」（サン＝テグジュペリ） 「藤野先生」（魯迅） 「ナガサキの郵便配達」（タウンゼント） 「卵を抱きながら、もしくは、くせになる翻訳。」（松永美穂） 英語コミュニケーションⅢにおける[思考力・判断力・表現力](３)ウ読むこと(ア)との関連
				②　思考・判断・表現 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。（Ｂ（１）オ） 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（１）カ） 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（１）キ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③　主体的に学習に取り組む態度 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			

12月 1週 ～ 1月 4週	12 文学の普遍性③ 自分と未来をつなぐ文学の魅力を探る 「山椒魚」 「珊瑚のリング」 「旅する本」 「文学の未来」 「企画・提案型小論文を書く」	B読むこと	10	① 知識・技能 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。((２)ア) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。((２)イ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価（abc） ・定期考査（①を図る問題）の点数評価（abc）	○この小説に描かれた山椒魚の言動や考え方から、どのような思いをもったか、文章にまとめる。 ○母から受け取った「珊瑚のリング」が、現代社会で働いている「私」にもたらしてくれたものは何か、考える。 ○「本」とはどのようなものとして描かれているか。次の表現を手がかりに話し合う。 ・読む者にかけてくれる魔法（429下・13） ・自分だけの物語（432下・8） ○ 「読者という他者に～完成する」（435下・7～8）とあるが、筆者は、文学作品と読者との関係をどのようなものであると考えているか、説明する。 ○ 「近代・現代文学」を対象とし、与えられた課題に対して、多くの賛同を得られるように自分の企画・提案を述べる。	作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりする活動。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ(2)イ）	「山椒魚」（井伏鱒二） 「珊瑚のリング」（吉本ばなな） 「旅する本」（石田衣良） 「文学の未来」（小野正嗣 日本史探究における「Ｄ近現代の地域・日本と世界」（３）イ(イ)との関連
				② 思考・判断・表現 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。（Ｂ（１）オ） 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（１）カ） 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。（Ｂ（１）キ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察（abc） ・週末課題（レポート等）の分析（abc） ・定期考査（②を測る問題）の点数評価（abc）			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析（abc） ・学習の取り組みの観察（abc） ・週末課題の提出状況の点検（abc）			

領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと	0
	書くこと	20
	読むこと	50
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
古典探究	2	全日制・普通科・3学年・文・理	新編古典探究（東京書籍）

科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月	古文 1　随筆を味わう 「枕草子」	A 読むこと	6	①　知識・技能 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。 ・列挙されたものを読み取り、なぜそれらが「ありがたし」なのかを考える。 ・隆家と作者の会話から、二人の人物関係について理解する。 ・女房たちは作者をどのように評価しているかを読み取る。	○清少納言の視点について考え、興味・関心をもった内容を発表し合う活動。A（2）ア	「ありがたきもの」「九月ばかり」「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」 国語科（言語文化）における知識及び技能（1）アとの関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと（1）ア 漢文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと（1）エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の観察眼や「をかし」という語に代表される価値観について理解し、今までの学習を生かして現代にも連なる心情について自らの考えを深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
5月	漢文 1　小話―三編 「十八史略」	A 読むこと	6	①　知識・技能 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○昨年度の『十八史略』『三国志』の学習内容を踏まえたうえで、話の展開や内容のおもしろさを味わい、さまざまな人間の考え方を比較する。 ・「童謡」と「撃壌」の歌から、堯の政治と、堯の政治に対する民の受け止め方を読み取る。 ・「世笑以為宋襄之仁」となった理由を捉える。 ・陳勝の傭者に対する発言と、傭者の返答、それに対する陳勝の気持ちを読み取る。	○襄公の考えと孫子の考えを比較し、それぞれの利点と欠点を考える話し合う活動。A（2）ア	「鼓腹撃壌」「宋襄之仁」「燕雀安知鴻鵠之志哉」 外国語科「読むこと」の領域における、「書き手の意図をとらえること」との関連
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。（1）ア	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に文章のおもしろさを味わい、出典章段のその他の話を読み、今までの学習を生かして、さまざまな人間の考え方について考察しようとしている	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
6月	古文 2　歌物語を楽しむ 「伊勢物語」	A 読むこと	8	①　知識・技能 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・歌に込められている思いに着目する。 ・歌の表現技法を理解する。	○□歌物語の特徴などを理解するとともに、『伊勢物語』の作品としての性格についてまとめる。A（2）ア	「初冠」「東下り」「渚の院」 国語科（言語文化）における知識及び技能（1）アとの関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと（1）ア	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の観察眼や「をかし」という語に代表される価値観について理解し、今までの学習を生かして現代にも連なる心情について自らの考えを深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
7月	古典 2　歌物語を楽しむ 「大和物語」	A 読むこと	6	①　知識・技能 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・各章段に書かれている男の行動を読み取る。 ・それぞれの和歌が、どこでどのような時に詠まれているか考える。 ・「世の中に…」と「散ればこそ…」の贈答歌を、桜に対する思いという観点から比較する。 ・「をば」を山に捨てるまでの男の気持ちがどのように変化しているかを考える。	○歌物語としての「大和物語」と「伊勢物語」を比較して論ずる活動。また、各地に伝わる姥捨て伝説について調べて発表する活動。A（2）オ	「姥捨」 「地理歴史（歴史総合）における内容A（1）（2）との関連。
				②　思考・判断・表現 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。（1）イ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に歌物語の特徴について理解し、今までの学習を生かして、登場人物の心情や作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			

9月	漢文 2 古詩を味わう 古体詩－五首	A 読むこと	8	①　知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。（１）エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○近体詩と古体詩の詩形の違いや特徴を理解し、詩にうたわれた情景や心情を読み味わう。 ・展開に注意して現代語訳し、「桃夭」「上邪」「飲酒」「子夜呉歌」にうたわれた主題や心情を考える。 ・上記で学習したことをもとに、漢詩を味わいながら音読する。 ・「長恨歌」という題に込められた意味を 考える。	○印象に残った詩を挙げ、表現技法を参考にして自身の体験や思いを表現し、発表により相互に評価し合う活動。 A(２)ウ	「桃夭」「上邪」 「飲酒」「子夜呉歌」 「長恨歌」 「姥捨」 芸術(音楽)における内容A(３)、 B(１)との関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。　（１）エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的にその他の漢詩や白居易の「長恨歌」について調べ、今までの学習を生かして、日本文学に大きな影響を与えた理由について考察しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
10月	古文 3 歴史物語を読む 「大鏡」	A 読むこと	8	①　知識・技能 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（１）ウ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ・登場人物それぞれの人物像を読み取る。 ・道真の和歌を正確に読解し、そこに込められた心情を読み取る。 ・勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。	○各地に伝わる道真伝説、天神の由来を調べ、大鏡の独自性について報告書にまとめる活動。A(２)イ	「道真の左遷」 「道長、伊周の競射」
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。（１）ウ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に歴史物語の人物関係や時代背景について調べ、今までの学習を生かして登場人物の心情や人物像についての理解を深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
11月	漢文 3 史記を味わう 「史記」	A 読むこと	8	①　知識・技能 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。(２)ウ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○登場人物の人柄や言動を捉える。また、本文と同形の故事成語について現代の生活と絡めた随想を書く。 ・書き下し文を正確に記述する。 ・全文を音読した後、主語を確認しながら内容を正確に捉えて現代語訳する。 ・全体の内容について、秦国と趙国の双方が相手に与えた圧力の観点から考える。 ・趙王の発言に対する、廉頗と藺相如の言動をまとめる。 ・廉頗の藺相如に対する気持ちと行動をまとめ、二人の性格について話し合う。	○史記に描かれた、項羽と劉邦の争いに関連する動画などを参考に、項羽の情感を生かせるようセリフを朗読し合う活動。A(２)エ	「澠池之会」「刎頸之交」 「地理歴史(歴史総合)における内容A(１)(２)との関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に「…の交わり」という形の故事成語を探し、もとになった話を読もうとしている。また、そのうちの一つを選び、現代の私たちの 生活に当てはめて考えたことを、今までの学習を生かして随筆にまとめようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
12月	古文 5 作り物語を味わう 「源氏物語」	A 読むこと	6	①　知識・技能 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（１）ア ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。（２）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○他の作品や絵画との関係も踏まえながら、作り物語の内容を的確に読み取る。 ・登場人物の関係を整理する。 ・物語世界がどのような状況であるかを理解する。 ・桐壺の更衣の人物像、周囲の人々の桐壺の更衣に対する態度についてまとめる。 ・登場人物の心情を、歌や展開から読み取り、整理する。	○土佐光吉の絵と本文を比べて、気がついたことについて話し合う。A (2) イ ○源氏物語のその他の登場人物について調べ、気づいたことを論述する活動。A （２） イ	「光源氏の誕生」 「若紫」 言語文化における思考力、判断力、表現力(２)エとの関連。
				②　思考・判断・表現 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 ・積極的に他の作品で言及されたり絵に描かれたりした『源氏物語』と本文とを比較し、今までの学習を生かして登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
1月	漢文 4 中国の思想 「儒家と道家」	A 読むこと	6	①　知識・技能 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(２)エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○中国のさまざまな思想を比較し、人間のあり方について考え討論する。 ・孔子・孟子・荀子は「儒家」、老子・荘子は「道家」と呼ばれ、諸子百家のそれぞれが、時代の混乱を収束させるために活動したことを理解する。 ・書き下し文を正確に記述する。 ・正しい訓読をもとに語彙を調べ、性格に現代語訳する。 ６『論語』における「学問・君子・政治」の関係について考える。 ・「性相近也…」の章から、本文の「性」について考える。 ・孟子の性善説について理解する。 ・性悪説の特徴をまとめる。 ・孟子と荀子の相違点をまとめ、それぞれの論旨の展開の巧みな点について理解する。	○儒家が活躍した時代背景を調べ、「性善説」「性悪説」の双方を比較し、人の本質についてディベート形式で討論する。A (2) ア	「「論語一三章」 「性相近也」「不忍人之心」「人之性悪」「無用之用」「大道廃、有仁義」「小国寡民」「曳尾於塗中」 言語文化における思考力、判断力、表現力(２)エとの関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。(１)ウ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に「人間の本性」と「人間の本性が善か、悪か」について、それぞれ自分の考えをまとめ、 今までの学習を生かして発表しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
指導時間数の合計			70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
古典探究	3	全日制・普通科・3学年・文特	新編古典探究（東京書籍）

科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月	古文 1　随筆を味わう 「枕草子」	A 読むこと	9	①　知識・技能 　古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。 ・列挙されたものを読み取り、なぜそれらが「ありがたし」なのかを考える。 ・隆家と作者の会話から、二人の人物関係について理解する。 ・女房たちは作者をどのように評価しているかを読み取る。	○清少納言の視点について考え、興味・関心をもった内容を発表し合う活動。A（2）ア	「ありがたきもの」「九月ばかり」「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」 国語科（言語文化）における知識及び技能（1）アとの関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと（1）ア 漢文分野：「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。読むこと（1）エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　積極的に作者の観察眼や「をかし」という語に代表される価値観について理解し、今までの学習を生かして現代にも連なる心情について自らの考えを深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
5月	漢文 1　小話―三編 「十八史略」	A 読むこと	9	①　知識・技能 　古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○昨年度の『十八史略』『三国志』の学習内容を踏まえたうえで、話の展開や内容のおもしろさを味わい、さまざまな人間の考え方を比較する。 ・「童謡」と「撃壌」の歌から、堯の政治と、堯の政治に対する民の受け止め方を読み取る。 ・「世笑以為宋襄之仁」となった理由を捉える。 ・陳勝の傭者に対する発言と、傭者の返答、それに対する陳勝の気持ちを読み取る。	○襄公の考えと孫子の考えを比較し、それぞれの利点と欠点を考える話し合う活動。A（2）ア	「鼓腹撃壌」「宋襄之仁」「燕雀安知鴻鵠之志哉」 外国語科「読むこと」の領域における、「書き手の意図をとらえること」との関連
				②　思考・判断・表現 　「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。（1）ア	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　積極的に文章のおもしろさを味わい、出典章段のその他の話を読み、今までの学習を生かして、さまざまな人間の考え方について考察しようとしている	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
6月	古文 2　歌物語を楽しむ 「伊勢物語」	A 読むこと	12	①　知識・技能 　古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・歌に込められている思いに着目する。 ・歌の表現技法を理解する。	○□歌物語の特徴などを理解するとともに、『伊勢物語』の作品としての性格についてまとめる。 A（2）ア	「初冠」「東下り」「渚の院」 国語科（言語文化）における知識及び技能（1）アとの関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。読むこと（1）ア	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　積極的に作者の観察眼や「をかし」という語に代表される価値観について理解し、今までの学習を生かして現代にも連なる心情について自らの考えを深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
7月	古典 2　歌物語を楽しむ 「大和物語」	A 読むこと	9	①　知識・技能 　古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。（1）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・各章段に書かれている男の行動を読み取る。 ・それぞれの和歌が、どこでどのような時に詠まれているか考える。 ・「世の中に…」と「散ればこそ…」の贈答歌を、桜に対する思いという観点から比較する。 ・「をば」を山に捨てるまでの男の気持ちがどのように変化しているかを考える。	○歌物語としての「大和物語」と「伊勢物語」を比較して論ずる活動。また、各地に伝わる姥捨て伝説について調べて発表する活動。 A (2) オ	「姥捨」 「地理歴史（歴史総合）における内容A（1）（2）との関連。
				②　思考・判断・表現 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。（1）イ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に歌物語の特徴について理解し、今までの学習を生かして、登場人物の心情や作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			

9月	漢文 2 古詩を味わう 古体詩－五首	A 読むこと	12	①　知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。（１）エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○近体詩と古体詩の詩形の違いや特徴を理解し、詩にうたわれた情景や心情を読み味わう。 ・展開に注意して現代語訳し、「桃夭」「上邪」「飲酒」「子夜呉歌」にうたわれた主題や心情を考える。 ・上記で学習したことをもとに、漢詩を味わいながら音読する。 ・「長恨歌」という題に込められた意味を 考える。	○印象に残った詩を挙げ、表現技法を参考にして自身の体験や思いを表現し、発表により相互に評価し合う活動。 A(２)ウ	「桃夭」「上邪」「飲酒」「子夜呉歌」 「長恨歌」 「姥捨」 芸術(音楽)における内容A(３)、 B(１)との関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。　（１）エ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的にその他の漢詩や白居易の「長恨歌」について調べ、今までの学習を生かして、日本文学に大きな影響を与えた理由について考察しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
10月	古文 3 歴史物語を読む 「大鏡」	A 読むこと	12	①　知識・技能 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（１）ウ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ・登場人物それぞれの人物像を読み取る。 ・道真の和歌を正確に読解し、そこに込められた心情を読み取る。 ・勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。	○各地に伝わる道真伝説、天神の由来を調べ、大鏡の独自性について報告書にまとめる活動。A(２)イ	「道真の左遷」 「道長、伊周の競射」
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。（１）ウ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に歴史物語の人物関係や時代背景について調べ、今までの学習を生かして登場人物の心情や人物像についての理解を深めようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
11月	漢文 3 史記を味わう 「史記」	A 読むこと	12	①　知識・技能 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。(２)ウ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○登場人物の人柄や言動を捉える。また、本文と同形の故事成語について現代の生活と絡めた随想を書く。 ・書き下し文を正確に記述する。 ・全文を音読した後、主語を確認しながら内容を正確に捉えて現代語訳する。 ・全体の内容について、秦国と趙国の双方が相手に与えた圧力の観点から考える。 ・趙王の発言に対する、廉頗と藺相如の言動をまとめる。 ・廉頗の藺相如に対する気持ちと行動をまとめ、二人の性格について話し合う。	○史記に描かれた、項羽と劉邦の争いに関連する動画などを参考に、項羽の情感を生かせるようセリフを朗読し合う活動。A(２)エ	「澠池之会」「刎頸之交」 「地理歴史(歴史総合)における内容A(１)(２)との関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に「…の交わり」という形の故事成語を探し、もとになった話を読もうとしている。また、そのうちの一つを選び、現代の私たちの 生活に当てはめて考えたことを、今までの学習を生かして随筆にまとめようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
12月	古文 5 作り物語を味わう 「源氏物語」	A 読むこと	9	①　知識・技能 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（１）ア ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。（２）ア	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○他の作品や絵画との関係も踏まえながら、作り物語の内容を的確に読み取る。 ・登場人物の関係を整理する。 ・物語世界がどのような状況であるかを理解する。 ・桐壺の更衣の人物像、周囲の人々の桐壺の更衣に対する態度についてまとめる。 ・登場人物の心情を、歌や展開から読み取り、整理する。	○土佐光吉の絵と本文を比べて、気がついたことについて話し合う。A (2) イ ○源氏物語のその他の登場人物について調べ、気づいたことを論述する活動。A （２） イ	「光源氏の誕生」 「若紫」 言語文化における思考力、判断力、表現力(２)エとの関連。
				②　思考・判断・表現 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 ・積極的に他の作品で言及されたり絵に描かれたりした『源氏物語』と本文とを比較し、今までの学習を生かして登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			
1月	漢文 4 中国の思想 「儒家と道家」	A 読むこと	9	①　知識・技能 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(２)エ	・授業中の発言や課題の点検(abc) ・文法・句法の小テストの評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の評価(abc)	○中国のさまざまな思想を比較し、人間のあり方について考え討論する。 ・孔子・孟子・荀子は「儒家」、老子・荘子は「道家」と呼ばれ、諸子百家のそれぞれが、時代の混乱を収束させるために活動したことを理解する。 ・書き下し文を正確に記述する。 ・正しい訓読をもとに語彙を調べ、性格に現代語訳する。 ６『論語』における「学問・君子・政治」の関係について考える。 ・「性相近也…」の章から、本文の「性」について考える。 ・孟子の性善説について理解する。 ・性悪説の特徴をまとめる。 ・孟子と荀子の相違点をまとめ、それぞれの論旨の展開の巧みな点について理解する。	○儒家が活躍した時代背景を調べ、「性善説」「性悪説」の双方を比較し、人の本質についてディベート形式で討論する。A (2) ア	「「論語一三章」「性相近也」「不忍人之心」「人之性悪」「無用之用」「大道廃、有仁義」「小国寡民」「曳尾於塗中」 言語文化における思考力、判断力、表現力(２)エとの関連。
				②　思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。（１）ウ	・対話的活動の観察(abc) ・探究的活動の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に「人間の本性」と「人間の本性が善か、悪か」について、それぞれ自分の考えをまとめ、 今までの学習を生かして発表しようとしている。	・振り返りシート記入の分析(abc) ・自主学習課題の取り組みの点検(abc)			

領域ごとの指導時間数の計	話すこと･聞くこと	
	書くこと	
	読むこと	105
指導時間数の合計		105

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 　生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 　生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を伸ばし、思考力や想像力を伸ばす。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 　言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を 　養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
国語探究	2	全日制・普通科・3学年	「近代文学セレクション」（啓隆社）
科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。そのことによって、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月 2週 ～ 5月 2週	夢十夜　第二夜　【８】	B読むこと	8	①　知識・技能 　言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。（(1)ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	・侍は最後に悟ることができたのか考える。	小説の仕組みや表現に着目して読む方法を理解し、作品の解釈を深める。	「夢十夜」 英語コミュニケーションⅢにおける[思考力・判断力・表現力]（２）ウとの関連
				②　思考・判断・表現 　言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。（(1)ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えたりすることに向けた粘り強い組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
5月 3週 ～ 6月 2週	自分の夢一夜を作る【８】	A書くこと	8	①　知識・技能 　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。（（１）ウ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	・自分で「こんな夢を見た」に続く小説を書き、互いに読みあう。	表現を工夫して自分の作品を作るとともに、他の人の作品を読むことで多様な表現や世界観に触れる。	「夢十夜」 論理・表現Ⅱにおける[思考力・判断力・表現力]（２）アとの関連
				②　思考・判断・表現 　文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。（Ａ（１）エ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			

6月 3週 ～ 7月 4週	蜜柑 【７】	B読むこと	7	①　知識・技能 　情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	・「私」が「云いようのない疲労と倦怠」と「不可解な、下等な、退屈な人生を僅かに忘れる事ができた」理由を考える。	人の思いに触れることで、自分の体験を改めて捉えなおし、作品と自分の共通点を見つけ考えを深める。	「蜜柑」 英語コミュニケーションⅢにおける[思考力・判断力・表現力]（３）ウ読むこと（ア）との関連
				②　思考・判断・表現 　情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
9月 1週 ～ 10月 4週	高瀬舟【１６】	B読むこと	16	①　知識・技能 　文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。((1)エ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	・弟を救ってやろうしてとった喜助の行動は、はたして罪に問えるのか考える。	作品の中に表れる人との関わり方を読み取り、自分はどのように人と関わっているのか論述する。	「高瀬舟」 論理・表現Ⅱにおける[思考力・判断力・表現力]（ウ）書くこと（ア）との関連
				②　思考・判断・表現 　語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。（Ｂ(1)イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
11月 1週 ～ 11月 4週	レポートを書く【８】	A書くこと	8	①　知識・技能 　文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。((1)エ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	・「高瀬舟」を読んで考えたことについてレポートを作成する。	レポートを書き、互いに読みあう。	「高瀬舟」」 論理・表現Ⅱにおける[思考力・判断力・表現力]（ウ）書くこと（ア）との関連
				②　思考・判断・表現 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。（Ａ（１）ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしてい	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			

12月 1週 ～ 12月 3週	セメント樽の中の手紙【１１】	B読むこと	11	①　知識・技能 　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。((1) ウ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	・セメント樽の中の手紙を読んだ松戸与三は、女工にその手紙の返事を書いたか、その理由を含めて考える。	効果的に使われている言葉を見つけ、言葉の広がりを班で共有する。	「セメント樽の中の手紙」 論理・表現Ⅱにおける[思考力・判断力・表現力](３)エ書くこと(イ)との関連
				②　思考・判断・表現 　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。((1) ウ)	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
12月 4週 ～ 1月 4週	名人伝【１２】	B読むこと	12	①　知識・技能 　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。((1) ウ)	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	・「九年の間、紀昌はこの老名人のもとに留まった」とあるが、この九年間で紀昌はどんな修行を積んだのか考える。	山月記の李徴とkの作品の紀昌の人柄を比べて、その違いを話し合う。	「名人伝」 論理・表現Ⅱにおける[思考力・判断力・表現力](３)エ書くこと(イ)との関連
				②　思考・判断・表現 　作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。（Ｂ(1)オ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			

領域ごとの指導時間数の計	話すこと･聞くこと	0
	書くこと	16
	読むこと	54
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 社会的事象を、位置や空間的な広がり、歴史的な視点をもとに、人間の営みと関連づけて理解する。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 社会的な見方・考え方をもとに、課題を追究したり、解決したりする力を習得する。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家および社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
日本史探究	4	全日制・普通科・3学年	詳説日本史日本史探究(山川出版社)
科目の目標	（1）日本の歴史に関わる諸事象について、地理的要因、他国との関係性も含めて理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 （2）日本の歴史に関わる諸事象について、意味や意義などを多面的・多角的に考えたり、それを取捨選択して効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 （3）日本の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月第2週～第3週	第Ⅲ部　近世 第8章 近世の幕開け	8	①　知識・技能 織豊政権の特色や貿易・対外関係について、また桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいたことを理解している。	小テスト・定期考査	織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について探求する。また、新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 織豊政権の諸政策の目的や南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	発表・レポート			
4月4週～5月4週	第Ⅲ部　近世 第9章 幕藩体制の成立と展開	16	①　知識・技能 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。	小テスト・定期考査	幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に探求する。全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大した結果各地で生まれた、風土に応じた特産物を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。	発表・レポート			
6月	第Ⅲ部　近世 第10章 幕藩体制の動揺	16	①　知識・技能 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発等に関する諸資料を、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義と関連づけられている。	小テスト・定期考査	農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を探求する。欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
7月	第Ⅳ部　近代・現代 第11章 近世から近代へ	8	①　知識・技能 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化を諸資料から読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。	小テスト・定期考査	江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連して探求する。さらには幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	発表・レポート			

9月1週～9月2週	第Ⅳ部　近代・現代 第12章 近代国家の成立	8	①　知識・技能 明治政府による中央集権化の諸政策とその影響、欧米・アジア諸地域との国際関係などについて、諸資料から理解している。	小テスト・定期考査	明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を探求する。さらには政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 国内体制を欧米の水準に合わせた必要性を前提に、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
9月3週～10月1週	第Ⅳ部　近代・現代 第13章 近代国家の展開	12	①　知識・技能 日清・日露戦争や第一次世界大戦が日本に及ぼした影響と、大戦後の日本の立場や対外政策の変化とを関連付けて理解している。	小テスト・定期考査	開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて探求する。さらには第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連して探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 大戦中の日本の動向に対する、中国や朝鮮などのアジア近隣諸国民受け止めた方を多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察し、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
10月2週～10月4週	第Ⅳ部　近代・現代 第14章 近代の産業と生活	12	①　知識・技能 諸資料から産業革命の展開について情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。	小テスト・定期考査	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して探求する。さらには労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 産業革命に伴う産業全般の変化や、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
11月	第Ⅳ部　近代・現代 第15章 恐慌と第二次世界大戦	16	①　知識・技能 満洲事変の背景とされる政治・経済体制の変化関連する情報を諸資料から読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。	小テスト・定期考査	日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について探求する。さらには戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	公共、政治・経済、地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 戦争が対米英戦に発展した理由や、全体主義的な日本の国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
12月	第Ⅳ部　近代・現代 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代	12	①　知識・技能 ＧＨＱによる占領政策と諸改革の方向性について、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、理解している。	小テスト・定期考査	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を探求する。さらには独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	公共、政治・経済、地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	発表・レポート			
1月	第Ⅳ部　近代・現代 第18章 激動する世界と日本	8	①　知識・技能 ドル＝ショックや石油危機等への対応から主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。 ②　思考・判断・表現 国連平和維持活動への対応や経済不況への国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 ③　主体的に学習に取り組む態度 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	小テスト・定期考査 R80・定期考査 発表・レポート	②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	公共、政治・経済、地理総合、地理探究、文学国語との関連。
指導時間数の計		76					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 社会的事象を、位置や空間的な広がり、歴史的な視点をもとに、人間の営みと関連づけて理解する。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 社会的な見方・考え方をもとに、課題を追究したり、解決したりする力を習得する。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家および社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
日本史探究	4	全日制・普通科・3学年	詳説日本史日本史探究(山川出版社)

科目の目標	（1）日本の歴史に関わる諸事象について、地理的要因、他国との関係性も含めて理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 （2）日本の歴史に関わる諸事象について、意味や意義などを多面的・多角的に考えたり、それを取捨選択して効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 （3）日本の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月第2週～第3週	第Ⅲ部　近世 第8章 近世の幕開け	8	①　知識・技能 織豊政権の特色や貿易・対外関係について、また桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいたことを理解している。	小テスト・定期考査	織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について探求する。また、新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 織豊政権の諸政策の目的や南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	発表・レポート			
4月4週～5月4週	第Ⅲ部　近世 第9章 幕藩体制の成立と展開	16	①　知識・技能 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。	小テスト・定期考査	幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に探求する。全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大した結果各地で生まれた、風土に応じた特産物を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。	発表・レポート			
6月	第Ⅲ部　近世 第10章 幕藩体制の動揺	16	①　知識・技能 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発等に関する諸資料を、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義と関連づけられている。	小テスト・定期考査	農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を探求する。欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
7月	第Ⅳ部　近代・現代 第11章 近世から近代へ	8	①　知識・技能 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化を諸資料から読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。	小テスト・定期考査	江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連して探求する。さらには幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、古典探求との関連。
			②　思考・判断・表現 日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	発表・レポート			

9月1週～9月2週	第Ⅳ部　近代・現代 第12章 近代国家の成立	8	①　知識・技能 明治政府による中央集権化の諸政策とその影響、欧米・アジア諸地域との国際関係などについて、諸資料から理解している。	小テスト・定期考査	明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を探求する。さらには政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 国内体制を欧米の水準に合わせた必要性を前提に、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
9月3週～10月1週	第Ⅳ部　近代・現代 第13章 近代国家の展開	12	①　知識・技能 日清・日露戦争や第一次世界大戦が日本に及ぼした影響と、大戦後の日本の立場や対外政策の変化とを関連付けて理解している。	小テスト・定期考査	開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて探求する。さらには第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連して探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 大戦中の日本の動向に対する、中国や朝鮮などのアジア近隣諸国民受け止めた方を多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察し、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
10月2週～10月4週	第Ⅳ部　近代・現代 第14章 近代の産業と生活	12	①　知識・技能 諸資料から産業革命の展開について情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。	小テスト・定期考査	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して探求する。さらには労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 産業革命に伴う産業全般の変化や、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
11月	第Ⅳ部　近代・現代 第15章 恐慌と第二次世界大戦	16	①　知識・技能 満洲事変の背景とされる政治・経済体制の変化関連する情報を諸資料から読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。	小テスト・定期考査	日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について探求する。さらには戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	公共、政治・経済、地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 戦争が対米英戦に発展した理由や、全体主義的な日本の国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
12月	第Ⅳ部　近代・現代 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代	12	①　知識・技能 ＧＨＱによる占領政策と諸改革の方向性について、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、理解している。	小テスト・定期考査	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を探求する。さらには独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を探求する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	公共、政治・経済、地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	発表・レポート			
1月	第Ⅳ部　近代・現代 第18章 激動する世界と日本	8	①　知識・技能 ドル＝ショックや石油危機等への対応から主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。	小テスト・定期考査	②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	グループ内での発表に向けてのレポート作成およびレポート内容に関するグループ内での相互評価。	公共、政治・経済、地理総合、地理探究、文学国語との関連。
			②　思考・判断・表現 国連平和維持活動への対応や経済不況への国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	R80・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	発表・レポート			
指導時間数の計		76					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 社会的事象を、位置や空間的な広がり、歴史的な視点をもとに、人間の営みと関連づけて理解する。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 社会的な見方・考え方をもとに、課題を追究したり、解決したりする力を習得する。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家および社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
政治・経済	2	全日制・普通科・3学年	高等学校　政治・経済(第一学習社)
科目の目標	（1）社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （2）国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 （3）よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～5月 第3週	第1編　現代日本の政治・経済の諸課題 第1章　現代日本の政治・経済 第3節　市場経済の機能と限界	10	①　知識・技能 市場経済の機能と限界についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査・小テスト	市場経済の機能とその限界についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代日本の経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをスライドにまとめる。	家庭基礎 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 市場経済の機能と限界に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	発表・スライド			
			③　主体的に学習に取り組む態度 市場経済の機能と限界に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
5月第 4週～ 7月第 3週	第1編　現代日本の政治・経済の諸課題 第1章　現代日本の政治・経済 第4節　持続可能な財政および租税のあり方 第5節　金融を通した経済活動の活性化	12	①　知識・技能 財政や金融についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査・小テスト	財政や金融についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代日本の経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをレポートにまとめる。	家庭基礎 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 財政や金融に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 財政や金融に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
9月第 1週～ 10月第 1週	第1編　現代日本の政治・経済の諸課題 第1章　現代日本の政治・経済 第6節　経済活動と福祉の向上	8	①　知識・技能 経済活動と福祉の向上についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査・小テスト	経済活動と福祉についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代日本の経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをスライドにまとめる。	家庭基礎 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 経済活動と福祉の向上に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	発表・スライド			
			③　主体的に学習に取り組む態度 経済活動と福祉の向上に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
10月第 2週～ 11月第 2週	第2編　グローバル化する国際社会の諸課題 第1章　現代の国際政治・経済 第1節　国際法の果たす役割 第2節　国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	8	①　知識・技能 国際法や国際平和についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査・小テスト	国際法や国際平和についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代の世界経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをレポートにまとめる。	歴史総合 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 国際法や国際平和に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 国際法や国際平和に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
11月第 3週～ 1月第 4週	第2編　グローバル化する国際社会の諸課題 第1章　現代の国際政治・経済 第3節　相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節　国際経済において求められる日本の役割	14	①　知識・技能 国際経済についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査・小テスト	国際経済についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代の世界経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをスライドやレポートにまとめる。	歴史総合 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 国際経済に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	発表・スライド			
			③　主体的に学習に取り組む態度 国際経済に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
指導時間数の計		52					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 　社会的事象を、位置や空間的な広がり、歴史的な視点をもとに、人間の営みと関連づけて理解する。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 　社会的な見方・考え方をもとに、課題を追究したり、解決したりする力を習得する。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 　広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家および社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
公民探究	2	全日制・普通科・3学年（文系）	最新公共資料集(第一学習社)
科目の目標	（1）社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 （2）国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 （3）よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～5月 第3週	第2編　グローバル化する国際社会の諸課題 第1章　現代の国際政治・経済 第1節　国際法の果たす役割 第2節　国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	12	①　知識・技能 国際法や国際平和についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査 小テスト	国際法や国際平和についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代の世界経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをレポートにまとめる。	歴史総合 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 国際法や国際平和に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 国際法や国際平和に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
5月第 4週～ 7月第 3週	第2編　グローバル化する国際社会の諸課題 第1章　現代の国際政治・経済 第3節　相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節　国際経済において求められる日本の役割	14	①　知識・技能 国際経済についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査 小テスト	国際経済についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代の世界経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをスライドやレポートにまとめる。	歴史総合 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 国際経済に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	発表・スライド			
			③　主体的に学習に取り組む態度 国際経済に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
9月第 1週～ 10月第 1週	第1編　現代日本の政治・経済の諸課題 第1章　現代日本の政治・経済 第3節　市場経済の機能と限界	12	①　知識・技能 市場経済の機能と限界についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査 小テスト	市場経済の機能とその限界についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代日本の経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをスライドにまとめる。	家庭基礎 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 市場経済の機能と限界に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	発表・スライド			
			③　主体的に学習に取り組む態度 市場経済の機能と限界に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
10月第 2週～ 11月第 2週	第1編　現代日本の政治・経済の諸課題 第1章　現代日本の政治・経済 第4節　持続可能な財政および租税のあり方 第5節　金融を通した経済活動の活性化	10	①　知識・技能 財政や金融についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査 小テスト	財政や金融についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代日本の経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをレポートにまとめる。	家庭基礎 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 財政や金融に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 財政や金融に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			
11月第 3週～ 1月第 4週	第1編　現代日本の政治・経済の諸課題 第1章　現代日本の政治・経済 第6節　経済活動と福祉の向上	4	①　知識・技能 経済活動と福祉の向上についての概念や理論を理解するとともに、社会の在り方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査 小テスト	経済活動と福祉についての概念や理論について講義等で基本的な理解を深めるとともに、現代日本の経済に関する事例を取り上げ、その課題等を探究することで、思考・判断・表現の力を養う。	課題についてグループ内で話し合い、話し合いの結果を発表する。また話し合い後に、自身の考えをスライドにまとめる。	家庭基礎 公共 総合的な探究の時間
			②　思考・判断・表現 経済活動と福祉の向上に関する概念や理論などを活用して、現代社会の課題を把握し社会参画に向かう力を身に付ける。	発表・スライド			
			③　主体的に学習に取り組む態度 経済活動と福祉の向上に関する概念や理論などを活用して、国家及び社会の形成に、積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	事後振り返り活動			

指導時間数の計	52

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画（教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学Ⅱ	2	全日制・普通科・3学年	新編　数学Ⅱ（数研出版）
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	第5章　指数関数と対数関数 第2節　対数関数	15	①　知識・技能 ・指数を有理数へ拡張する意義を理解し，指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・対数の意味とその性質について理解し，対数の計算をすることができる。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。	・定期考査 ・小テスト	○指数を整数へ拡張した指数法則について理解し，指数法則を用いて，計算することができることを学ぶ。 ○累乗根の意味を理解し，指数を有理数へ拡張した指数法則について理解し，計算することを学ぶ。 ○指数関数のグラフをかいたり，大小比較をしたりすることを学ぶ。また，指数関数を含む方程式・不等式の解法を学ぶ。 ○対数の意味を理解し，対数の値を求めることを学ぶ。 ○対数の性質を理解し，それを用いて対数の計算をすることを学ぶ。 ○対数関数のグラフをかいたり，大小比較をしたりすることを学ぶ。また，対数関数を含む方程式・不等式の解法を学ぶ。 ○常用対数について理解し，それらを用いて，整数の累乗の桁数を求めることを学ぶ。 ○身近な問題を解決することに，指数・対数関数を活用することを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。 ・指数・対数関数の式とグラフの関係を多面的に考察することができる。 ・2つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を指数関数・対数関数の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント			
6月 ～ 9月	第6章　微分法と積分法 第1節　微分係数と導関数 第2節　関数の値の変化 第3節　積分法	25	①　知識・技能 ・微分係数や導関数の意味について理解し，基本的な導関数を求めることができる。 ・関数の値の増減や極大・極小を調べ，グラフの概形をかく方法を理解している。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し，基本的な不定積分や定積分の値を求めることができる。	・定期考査 ・小テスト	○平均変化率について理解し，求め方を学ぶ。 ○極限値や微分係数の意味を理解し，求め方を学ぶ。また，接線の傾きを求めることを学ぶ。 ○導関数の意味を理解し，利用することで，微分係数を求めることができることを学ぶ。 ○曲線上のある点における接線の方程式の求め方を学ぶ。 ○関数の増減の調べ方を学ぶ。 ○極大値・極小値を求めたり，そのグラフのかき方を学ぶ。 ○関数の最大値・最小値を，増減を調べることによって求めることができることを学ぶ。 ○３次関数のグラフを利用して，３次方程式の実数解の個数を調べ方を学ぶ ○不定積分の意味を理解し，求め方を学ぶ。 ○定積分の意味を理解し，求め方を学ぶ。 ○定積分を利用して，直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができることを学ぶ。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・関数とその導関数との関係について考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ・微分と積分の関係に着目し，積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・事象を微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント			
10月 ～ 1月	問題演習 第1章　数と式 第2章　集合と命題 第3章　2次関数 第4章　図形と計量 第5章　データの分析	30	①　知識・技能 ・指数法則や乗法公式の意味を理解し、展開ができる。 ・因数分解の公式を理解し、計算できる。 ・数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ・平方根の基本性質を理解している。 ・根号を含む式の計算や有理化ができる。 ・関数のグラフの意味を理解している。 ・２次関数のグラフの軸と頂点の座標の方程式を求めることができる。 ・２次関数のグラフや式を用いて、２次関数の最大値、最小値を求めることができる。	・定期考査 ・小テスト	○量の大小関係を不等式に表し、不等式の解の意味を学習する。 ○１次不等式の解法を理解し、それを利用して、身近な事象について考察する。 ○集合の共通部分・和集合・ 補集合を理解し、集合の要素の個数を求められるようにする。 ○命題、必要条件、十分条件および逆、対偶などを学習する。 ○「AB=0ならば A=0 またはB=0」を理解し、因数分解による２次方程式の解法を学習する。 ○２次方程式の実数解の個数と判D＝b2−4acの符号の関係について学習する。 ○２次関数のグラフと２次不等式の解の関係を理解し、２次関数のグラフを利用し２次不等式の解を求められることを学習する。 ○三角比の相互関係について、学習する。 ○正弦定理と余弦定理を理解し、それらを利用して、残りの辺や角求めることを学習する。 ○三角比の相互関係について、学習する。 ○正弦定理と余弦定理を理解し、それらを利用して、残りの辺や角求めることを学習する。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科　情報
			②　思考・判断・表現 ・y=ax^2+bx+cのグラフとｘ軸との共有点のｘ座標とax^2+bx+c=0の解の関係について考察する。 ・座標平面上の半円を用いて、180°－θの三角比とθの三角比との関係を導く過程を考察することができる。 ・三角形の面積を、三角比を用いて表す過程を考察することができる。 ・三角比を空間図形の計量の考察に用いることができる。 ・散布図と相関係数から２つの変量の間の相関関係を考察できる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・日常の事象や社会の事象に関連した課題の解決に、不等式を活用しようとする。 ・背理法の考え方に興味を持ち、これを証明に活用しようとする。 正弦定理・余弦定理が図形の計量の考察に有用であることに気付き、活用しようとする。 ・三角比を、平面図形や空間図形の計量に活用しようとする。 ・観察や実験を通して得られたデータから散らばりを理解して、全体の傾向をつかもうとする。	・学習活動への取り組み ・課題、ノート、プリント			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学Ⅲ	4	全日制・普通科・3学年	新編数学Ⅲ（数研出版）

科目の目標	○極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。 ○極限，微分法及び積分法における事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。 ○極限，微分法及び積分法における論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 1週 ～ 4月 5週	第1章　関数 1　分数関数 2　無理関数 3　逆関数と合成関数	16	①　知識・技能 ○数列の極限値の定義を理解している。 ○簡単な数列の収束，発散を調べ，極限を求めることができる。 ○収束する数列の極限値の性質を理解し，それを用いて，数列の極限が求められる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解し，既に学習した関数の性質と関連付けて多面的に考察するとともに，合成関数や逆関数の意味を理解し，それらを求めることできるようにする。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○数列の式の変形が容易でない場合，「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○不定形の数列の式を，不定形を解消するように工夫して変形しようとする。 ○「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に，興味・関心をもつ。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
5月 1週 ～ 5月 5週	第2章　極限 1　数列の極限 2　無限等比数列 3　無限級数 4　関数の極限（1） 5　関数の極限（2） 6　三角関数と極限 7　関数の連続性	14	①　知識・技能 ○数列の極限値の定義を理解している。 ○簡単な数列の収束，発散を調べ，極限を求めることができる。 ○収束する数列の極限値の性質を理解し，それを用いて，数列の極限が求められる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	·数列の極限について理解し，数列の極限を求められるようにする。 ·無限級数の収束，発散について理解し，無限級数の和を求められるようにする。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○数列の式の変形が容易でない場合，「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○不定形の数列の式を，不定形を解消するように工夫して変形しようとする。 ○「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に，興味・関心をもつ。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
6月 1週 ～ 6月 5週	第3章　微分法 1　微分係数と導関数 2　導関数の計算	18	①　知識・技能 ○連続性が微分可能性の必要条件ではあるが十分条件ではないことを理解している。 ○微分可能性と連続性の関係を理解し，連続ではあるが微分可能でないことを示せる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・微分可能性，関数の積及び商の導関数，合成関数の導関数について理解し，それらの導関数を求められるようにする。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○連続性が微分可能性の必要条件ではあるが十分条件ではないことを理解している。 ○微分可能性と連続性の関係を理解し，連続ではあるが微分可能でないことを示せる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○微分係数の図形的意味を考察しようとする。 ○微分可能性と連続性の関係について，興味・関心をもつ。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
7月 1週 ～ 7月 3週	第3章　微分法 3　いろいろな関数の導関数 4　第n次関数 5　曲線の方程式と導関数	14	①　知識・技能 ○三角関数の導関数を理解し，三角関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。 ○自然対数eの定義と，対数関数の導関数を理解し，対数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・三角関数の極限を利用して三角関数の導関数の公式を理解できる。 ·いろいろな三角関数の導関数を求めることができる。 ・絶対値を含む対数関数の導関数を求めることができる。 ・三角関数，指数関数，対数関数やそれらの合成関数などの導関数を求めることができる。 ・対数を利用した微分法を分数関数などに活用できる ·曲線の方程式の両辺についてxで微分することができる。 ・第 n 次導関数を求めることができる。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○対数微分法を利用して，複雑な関数を微分について考察することができる。 ○αが実数のとき，$(x^{\alpha})'=\alpha x^{(\alpha-1)}$が成立することを考察できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○自然対数の底eを考える必要性に興味をもち，考察しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
9月 1週 ～ 9月 5週	第4章　微分法の応用 1　接線の方程式 2　平均値の定理 3　関数の値の変化 4　関数のグラフ	17	①　知識・技能 ○関数の極大値・極小値や最大値・最小値を調べる際に，増減表をかいて考察している。 ○導関数の符号と関数の増減の関係を理解し，導関数を利用して関数の増減が調べられる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	·増減表やグラフを利用して，関数の最大値や最小値を求めたり，方程式や不等式の解について調べることができる。 ·微分法を活用して，速度や加速度を導関数を用いて表現できる。 ・微分法の考え方を活用して，近似値や近似式が求められることを理解している。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○平均値の定理を利用して「導関数の符号と関数の増減」の関係を証明する方法を，理解することができる。 ○f(x)がx＝aで微分可能でなくても，f(a)が極値となることがあることを理解している。また，その極値を求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○関数の増減や極値の問題を，導関数を用いて考察しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			

10月 1週 ～ 10月 5週	第4章　微分法の応用 5　方程式･不等式への応用 6　速度と加速度 7　近似値	17	①　知識・技能 〇曲線の凹凸の定義を理解し，第2次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。 〇変曲点の定義を理解し，変曲点が求められる。 〇関数の増減，凹凸，変曲点，漸近線，定義域，x→±∞のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・定数を分離することにより，方程式の実数解の個数を関数のグラフの共有点の個数として調べられることを考察できる。 ･直線上の運動の解析から平面上の運動の解析に拡張できることを認識している。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 〇第2次導関数の符号と導関数の増減の関係を理解している。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 〇関数のグラフの様々な形に興味をもち，様々な方法でそれを調べようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
11月 1週 ～ 11月 5週	第5章　積分法の応用 1　不定積分とその基本性質 2　置換積分法と部分積分法 3　いろいろな関数の不定積分	17	①　知識・技能 〇不定積分の定義や性質を理解し，それを利用して種々の関数の不定積分を計算できる。 〇不定積分の計算では，積分定数を書き漏らさずに示すことができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	･置換積分法や部分積分法を用いて，いろいろな関数の不定積分を求めることができる。 ・三角関数の公式を活用して，いろいろな三角関数の不定積分を求めることができる。 ・導関数と不定積分の関係を理解し，身に付けている。 ・置換積分法や部分積分法について理解し，それらを活用して不定積分を求める考え方を身に付けている。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 〇微分法の逆演算として，不定積分を計算することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 〇積分法が微分法の逆演算であることから，不定積分を求めようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
12月 1週 ～ 12月 4週	第5章　積分法の応用 4　定積分とその基本性質 5　置換積分法と部分積分法 6　定積分のいろいろな問題	13	①　知識・技能 〇定積分の置換積分法では，積分区間の変換に注意して定積分を計算している。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・置換積分法や部分積分法の考え方を認識できる。 ・分数関数を部分分数に分解して，不定積分を求める考え方を認識できる。 ・積分法の記号の意味を理解できる。□	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 〇置換積分法を利用して，円の面積を求める公式が数学的にきちんと証明できたことを理解することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 〇置換積分法により，複雑な関数の定積分を求めることに興味・関心を示す。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
1月 1週 ～ 1月 5週	第5章　積分法の応用 7　面積 8　体積 9　道のり 10 曲線の長さ	14	①　知識・技能 〇上端，下端が変数xである定積分で表された関数の扱い方を理解している。 〇特別な形をした数列の和の極限を，定積分を利用して計算することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・定積分を利用して曲線で囲まれた図形の面積を求める考え方を理解している。 ・定積分を利用して立体の体積を求める考え方を理解している。 ･曲線の長さを求める考え方を理解している。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 〇上端，下端がxである定積分をxの関数とみることができる。 〇曲線で囲まれた部分の面積を微少な長方形で近似する考え方で，定積分と和の極限との関係を考察することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 〇曲線で囲まれた部分の面積を微少な長方形で近似する積分の基本的な考え方に興味・関心をもつ。 〇∫_0^(π/2)〖e^x　sinx dx〗，∫_0^(π/2)〖e^x　cosx dx〗の値を 興味・関心をもって考察しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
指導時間数の計		140					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学C	2	全日制・普通科・3学年（文特・理系）	新編数学C（数研出版）
科目の目標	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 1週 ～ 6月 1週	1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	20	①　知識・技能 ○ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。 ○ベクトルの和の計算ができる。 ○ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。 ○ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。 ○ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。 ○成分表示されたベクトルの和、差、実数倍の計算ができる。 ○成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。 ○成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。 ○ベクトルの垂直・平行条件を理解し、成分を定めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるよう学習する。位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるよう学習する。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 ○ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。 ○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ○内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 ○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ○位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○ベクトルの演算に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ○成分表示されたベクトルの演算法則を、ベクトルの演算法則から導き出そうとする。 ○ベクトルの内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。 ○内積の性質を、既習の知識を用いて証明しようとする。 ○三角形の面積が内積で表されることに興味・関心をもち、問題解決に利用しようとする。 ○様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ○座標空間における点の表し方を、座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。 ○平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
6月 2週 ～ 9月 2週	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	15	①　知識・技能 ○空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ○空間図形において、ベクトルの和や差を考えることができる。 ○平行六面体におけるベクトルを、和の形に表すことができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるよう学習する。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるよう学習する。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について、平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 ○空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○座標空間における点の表し方を、座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。 ○空間のベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。 ○平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
9月 3週 ～ 10月 4週	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	20	①　知識・技能 ○複素数平面上で、実軸、原点、虚軸に関して対称な点を表す複素数が、もとの複素数に対してどのような数であるか、理解している。 ○複素数の和、差、実数倍を計算することができる。 ○複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ○複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。 ○ド・モアブルの定理を理解し、複素数のn乗を求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるよう学習する。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○複素数の和、差、実数倍の、複素数平面における図形的意味を理解し、説明できる。 ○共役複素数の性質を理解し、また、それらを証明問題に利用することができる。 ○共役複素数や$-z$などを極形式でどのように表すか、その定義から考察できる。 ○複素数のn乗根がちょうどn個存在することを、極形式を用いて考察できる。 ○線分の内分点を表す複素数を活用して、三角形の重心を表す複素数を求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○複素数平面の定義から、複素数の和、差や実数倍が複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。 ○複素数zが実数や純虚数になる条件について、様々な方法で考察しようとする。 ○複素数が$a+bi$とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。 ○複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
11月 1週 ～ 1月 4週	1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線	15	①　知識・技能 ○放物線の標準形について理解し、放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 ○焦点の座標などから、楕円の方程式を求めることができる。 ○双曲線の標準形について理解し、双曲線の概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。 ○x、yの2次式を変形して、2次曲線の概形を考えることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるよう学習する。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるよう学習する。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答えのみではなくしっかりと筋道を立てて説明させる。また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○軌跡の考え方を用いて、放物線の方程式を導くことができる。 ○軌跡の考え方を用いて、楕円の方程式を導くことができる。 ○軌跡の考え方を用いて、双曲線の方程式を導くことができる。 ○2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○既知の円や放物線などの曲線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。 ○焦点がy軸上にある楕円の方程式について、焦点がx軸上にある楕円をもとに考察しようとする。 ○双曲線の漸近線について、曲線が限りなく近づくことを確かめようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学探究	4	全日制・普通科・3学年	「改訂版チャート式　基礎と演習　数学Ⅰ＋A」（数研出版）

科目の目標	「数学探究」の数学的な学習を通して、自分で課題を立て主体的・協働的に取り組む態度を身に付ける。また、数学的な活動を通して、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。 （1）基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、数学的に表現・処理することができる。 （2）事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的に考え、簡潔・的確に表現できる。 （3）数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度を身につけ、粘り強く考え問題解決できる。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 1週 ～ 4月 5週	【数学Ⅰ】 第1章　数と式 １　多項式の加法と減法 ２　多項式の乗法 ３　因数分解 ４　実数 ５　根号を含む式の計算 ＊　発展学習	16	①　知識・技能 ○指数法則や乗法公式の意味を理解し、展開ができる。 ○因数分解の公式を理解し、計算できる。 ○数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ○平方根の基本性質を理解している。 ○根号を含む式の計算や有理化ができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・指数法則と分配法則を利用して、整式の乗法を学習する。 ・整式を展開するために３乗の公式が利用できることを学習する。 ・因数分解では、共通因数をくくりだすことから始め、公式を使って、解くことを学習する。 ・複数の文字を含んだ整式の因数分解を学習する。 ・絶対値の定義や性質について学習する。 ・平方根の四則計算や分母の有理化について学習する。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○整式を１つの文字に着目して整理したり、１つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方ができる。 ○四則演算について考察することができる。 ○数を拡張してきた過程や数の四則演算の考察ができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○整式の加法・減法・乗法公式や因数分解などに関心を持ち、目的に応じて式の変形をしようとする。 ○数を実数まで拡張する意義に気付くとともに、数の拡張に関心を持ち、考察しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
5月 1週 ～ 5月 5週	第1章　数と式 ６　1次方程式と1次不等式 ７　2次方程式 ＊　発展学習 第2章　集合と命題 ９　集合 10　命題と条件 11　命題と証明 ＊　発展学習	14	①　知識・技能 ○１次不等式とその解の意味を理解し、解を求めることができる。 ○集合と命題の定義を理解し、必要条件、十分条件、逆、対偶などを表現することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・数量の大小関係を不等式に表し、不等式の解の意味を学習する。 ・１次不等式の解法を理解し、それを利用して、身近な事象について考察する。 ・集合の共通部分・和集合・補集合を理解し、集合の要素の個数を求められるようにする。 ・命題、必要条件、十分条件および逆、対偶などを学習する。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○１次不等式や連立不等式の解を求めることができる。 ○命題の逆・裏・対偶の関係を集合の関係に対応させて考察できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○日常の事象や社会の事象に関連した課題の解決に、不等式を活用しようとする。 ○背理法の考え方に興味を持ち、これを証明に活用しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
6月 1週 ～ 6月 5週	第3章　2次関数 ８　関数とグラフ ９　2次関数のグラフ 10　2次関数の最大･最小 11　2次関数の決定 ＊　発展学習	18	①　知識・技能 ○関数のグラフの意味を理解している。 ○２次関数のグラフの軸と頂点の座標の方程式を求めることができる。 ○２次関数のグラフや式を用いて、２次関数の最大値、最小値を求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・２次関数のグラフの基本形を理解し、平行移動した時のグラフの書き方を学習する。 ・２次関数の一般形から標準形に平方完成することを学習する。 ・与えられた条件から２次関数を求める考え方を学習する。 ・２次関数の定義域に制限がある場合の最大値・最小値を求める方法を学習する。 ・２次関数の最大・最小を応用して解決できる身近な問題を考察する。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○２次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。 ○２次関数ｙ＝ax^2+bx+cのグラフはy=ax^2 のグラフを平行移動したものであることを理解し、考察できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○２次関数とそのグラフについて関心を持ち、調べようとする。 ○具体的な事象の考察に２次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
7月 1週 ～ 7月 4週	第3章　2次関数 12　2次関数のグラフとx軸の 位置関係 13　2次不等式 ＊　発展学習 第4章　図形と計量 14　三角比 15　三角比の相互関係 16　三角比の拡張 ＊　発展学習 17　正弦定理･余弦定理とその 応用	14	①　知識・技能 ○２次関数のグラフとｘ軸との共有点の個数は、判別式Dの符号によって分類されることを理解し、共有点の個数を求めることができる。 ○三角比の相互関係から、与えられた三角比の値から残りの三角比を求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・「AB=0ならば A=0 または B=0」を理解し、因数分解による２次方程式の解法を学習する。 ・２次方程式の実数解の個数と判別式D＝b2-4ac の符号の関係について学習する。 ・２次関数のグラフと２次不等式の解の関係を理解し２次関数のグラフを利用して、２次不等式の解を求められることを学習する。 ・三角比の相互関係について、学習する。 ・正弦定理と余弦定理を理解し、それらを利用して、残りの辺や角求めることを学習する。	＊主に、発展学習において、実施・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する言語活動をおこなう。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することを通して、言語活動を　おこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○y=ax^2+bx+cのグラフとｘ軸との共有点のｘ座標とax^2+bx+c=0の解の関係について考察する。 ○座標平面上の半円を用いて、180°－θの三角比とθの三角比との関係を導く過程を考察することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○２次関数のグラフを使って2次不等式の解を求めることができることを理解する。 ○具体的な事象の考察に2次不等式を活用しようとする。 ○鈍角の三角比を考えることに関心を持ち、鋭角の三角比との関係について考察しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			

9月 1週 ～ 9月 5週	第4章　図形と計量 18　三角形の面積 19　相似な図形の面積比・体積比 20　空間図形の計量 ＊　発展学習 第5章　データの分析 1　データの整理 2　データの代表値 3　データの散らばりと四分位範囲 4　分散と標準偏差 5　2つの変量の間の関係	17	①　知識・技能 ○三角形の面積の公式の意味を理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ○三角比や正弦定理・余弦定理などを用いて平面図形や空間図形を計量することができる。 ○四分位数、四分範囲、分散、標準偏差を求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・三角比を利用して、三角形の面積を求める方法を学習する。 ・多角形や空間図形（立体）について、三角比を利用することにより、面積や体積を求めることができることを学習する。 ・データに関する用語・記号を学習する。 ・データを度数分布表やヒストグラムで表すことにより、データの傾向をとらえられることを学習する。 ・基本的な分散と標準偏差について学習する。 ・２つのデータを散布図に表し、２つのデータの相関関係の有無を判断できることを学習する。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○三角形の面積を、三角比を用いて表す過程を考察することができる。 ○三角比を空間図形の計量の考察に用いることができる。 ○散布図と相関係数から２つの変量の間の相関関係を考察できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○正弦定理・余弦定理が図形の計量の考察に有用であることに気付き、活用しようとする。 ○三角比を、平面図形や空間図形の計量に活用しようとする。 ○観察や実験を通して得られたデータから散らばりを理解して、全体の傾向をつかもうとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
10月 1週 ～ 10月 5週	【 数学A 】 第1章　場合の数と確率 1　集合 2　集合の要素の個数 3　場合の数 4　順列 5　組合せ 6　二項定理 ＊　発展学習	17	①　知識・技能 ○和の法則、積の法則を利用して場合の数を求めることができる。 ○順列、組合せの用語の意味や考えを理解し、場合の数を効率よく正確に求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・順列の意味と、その総数を求めることを学習する。 ・階乗や公式を用いた場合の数の表し方を学習する。 ・重複順列の意味と、その総数の求め方を学習する。 ・組合せの意味とその総数を求めることを学習する。 ・組合せの数の間に成り立つ関係式について学習する。 ・円順列や同じものを含む順列の意味と、その数の求め方について学習する。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○和の法則、積の法則が、場合の数を数えるときの元になっていることに気づくことができる。 ○場合の数を考えるに当たって、順序を考えるか否かに気づくことができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○起こりうる場合の数をもれなく重複なく数えることに関心をもち、調べようとする。 ○場合の数を効率よく正確に数えるために、順列・組合せの考えを活用しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
11月 1週 ～ 11月 5週	第1章　場合の数と確率 7　事象と確率 8　確率の基本性質 9　独立な試行と確率 10　期待値 ＊　発展学習 11　確率の乗法定理 （補充事項）	17	①　知識・技能 ○確率の意味や、場合の数を求めることで確率を計算する方法を理解し、具体的な事象の確率を求めるための基礎的な知識を身につけている。 ○確率の基本性質を理解し、それを使って、積事象や和事象、余事象の確率を求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・試行と事象の意味を理解し、確率の定義を学習する。 ・硬貨投げやさいころなどの簡単な問題で、根元事象を見極めて確率を求める方法を学習する。 ・順列や組合せの数を用いた確率の求め方を学習する。 ・加法定理などの確率の基本性質、余事象の確率を学習する。 ・反復試行の意味を理解し、これを用いて確率の計算ができるようにする。 ・期待値について、意味を理解し、試行について損得を考えられるようにする。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○試行の結果として起こる事柄を事象として考え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ○確率の基本性質を導く過程を考察することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○根元事象の個数の割合を考えることによって確率が定義されることに気づき、これを使って確率を求めようとする。 ○確率の基本的な性質があることに気づき、これらを利用して確率を求めようとする。 ○期待値を意思決定に活用しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
12月 1週 ～ 12月 4週	第2章　図形の性質 12　三角形の辺の比、外心・内心・重心 13　三角形の辺と角 14　円周角 15　円と直線 16　2つの円 ＊　発展学習	13	①　知識・技能 ○三角形の角の2等分線と線分の比の関係について理解し、線分の長さを求めることができる。 ○三角形の重心や外心などから、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 ○円の性質を系統的に理解し、線分の長さや角の大きさを求めることができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・三角形の角の２等分線が対辺を残りの２辺の比に分けることを学習する。 ・三角形の重心、外心、内心、垂心の定義を学習する。 ・チェバの定理とメネラウスの定理について理解し、問題に生かせるようにする。 ・円周角の定理とその逆について学習する。 ・円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。 ・接弦定理と方べきの定理を学習する。 ・２つの円の位置関係、共通接線にいて学習する。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○平行な直線と線分の比について考察することができる。 ○円周角の定理とその逆について考察することができる。 ○円周角の定理とその逆を使って、いろいろな円の性質が見出されることを考察することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○平行な直線を切る線分の比が等しいことに気づき、これが正しいことを調べようとする。 ○円に内接する四角形、接線と弦のなす角、方べきの定理など、円の性質の考察に当たって、円周角の定理が有用であることに気づき、この定理を活用しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
1月 2週 ～ 1月 5週	第3章　数学と人間と活動 17　約数と倍数 18　素数と素因数分解 19　最大公約数と最小公倍数 20　整数の割り算 21　ユークリッドの互除法 22　1次不定方程式 23　記数法 24座標の考え方 ＊　発展学習	14	①　知識・技能 ○ユークリッドの互除法を用いて2つの整数の最大公約数を求めることができる。 ○二元一次方程式の整数解を求めることができる。 ○ax+by=1の形の二元一次方程式の特殊解を求めるための知識を身につけている。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・整数や座標、図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて、数学的な見方で理解できるようにします。 ・ユークリッドの互除法について学習する。 ・１次不定方程式について学習する。 ・数学史的な話題を通して、数学と文化とのかかわりについて学習する。	＊主に、発展学習において、言語活動を実施する。 ・グループ学習や学び合いを通して、自分の考えを述べたり、他の考えを共有する。 ・問題演習の解答については、自分の考えを発表することをおこなう。	情報　理科
			②　思考・判断・表現 ○整数の除法の性質からユークリッドの互除法の仕組みに気づく。 ○二元一次方程式の特殊解を求める際に、ユークリッドの互除法が活用できることに気づく。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ○整数の除法の性質に関心をもち、2つの数の最大公約数を求めようとする。 ○ユークリッドの互除法を活用してax+by=1の形の二元一次方程式の特殊解を求めようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
指導時間数の計		140					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な知識および観察、実験などに関する技能を身につける。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自らの課題を設定し、課題解決に向けて多面的・多角的に思考し、科学的に探求することができる。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 自然の事象・現象に進んで関わり、周りと協働しコミュニケーションを取りながら、科学的に探究するために主体的に行動することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
物理	5	全日制・普通科・3学年（理系）	高等学校　物理（第一学習社）

科目の目標	(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第Ⅰ章　運動とエネルギー 第1節　平面運動と放物運動	5	①　知識・技能 ・変位や速度，加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し，それぞれを式で表すことができる。 ・速度の合成・分解や相対速度に関する現象を観察し，それぞれを式で表すことができる。 ・水平投射，斜方投射の運動の特徴を踏まえ，運動のようすを表す式を導くことができる。 ・アルミニウム箔のカップを落下させたときのようすから，空気抵抗の大きさを実感し，終端速度と質量との関係を求めることができる。	小テスト 定期考査	・直線運動を拡張した平面の運動における位置や変位，速度，速度の合成・分解，相対速度，加速度について理解する。 ・「物理基礎」で学習した自由落下や鉛直投げ上げの内容を確認し，水平投射や斜方投射のそれぞれの運動について理解する。 ・物体が空中を落下するときのようすを調べ，空気抵抗の特徴について理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 体育
			②　思考・判断・表現 ・変位や速度，加速度の違いを理解し，それぞれの関係を式で表すことができる。 ・水平投射，または斜方投射された物体の速度を分解して，それぞれの運動の特徴を説明することができる。 ・空気抵抗を受けて落下する物体について，運動方程式から終端速度と質量との関係を考えることができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・平面運動での位置や変位，速度，加速度などを表すベクトルについて，「物理基礎」で学習したベクトルの内容と関連させながら意欲的に理解しようとする。 ・「物理基礎」で学習した等速直線運動や落下運動の式をもとに，水平投射と斜方投射について，定量的に考えようとする。 ・アルミニウム箔のカップが落下するようすなどに関心をもち，それらの現象を物理的に考えようとする。	課題への取り組み 授業態度			
5月	第Ⅰ章　運動とエネルギー 第2節　剛体のつりあい 第3節　運動量の保存	10	①　知識・技能 ・バットのひねりあいの例を通して，力のモーメントの大きさは，力の大きさとうでの長さに関係することを理解する。 ・力が剛体におよぼすはたらきを考え，力のモーメントを用いて表すことができる。 ・平行でない2力，平行な2力の違いを理解し，それぞれ適切に力の合成を行うことができる。 ・剛体がつりあうときの力，力のモーメントの関係をそれぞれ確認し，剛体の重心を求めることができる。 ・運動量と力積の物理量の定義を理解し，それぞれを式で表すことができる。 ・F－tグラフから力積，力，衝突時間の関係を導くことができる。 ・運動量保存の法則と反発係数の式を用いて，さまざまな衝突における速度や運動量などを計算することができる。 ・反発係数の値に応じて，衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。	小テスト 定期考査	・力のモーメント，剛体のつりあい，剛体にはたらく2力の合成，偶力などを学習し，剛体にはたらく力について理解する。 ・重心について学習し，剛体にはたらく力のモーメントのつりあいの式の立て方を理解する。 ・運動量について学習し，運動方程式を用いて，運動量の変化と力積の関係を理解する。 ・物体にはたらく力の大きさが変化する場合について，力と時間の関係を示すグラフのようすから，平均の力を理解する。 ・運動量と力積の関係を用いて，運動量保存の法則を導き，直線上や平面上での衝突，物体が分裂，合体する場合のそれぞれで，運動量保存の法則が成り立つことを理解する。 ・反発係数を学習し，反発係数の値と衝突前後における力学的エネルギーの変化との関係を理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 体育
			②　思考・判断・表現 ・ばねばかりとおもりを用いた実験から，剛体がつりあう条件を見出すことができる。 ・剛体がつりあう条件について，式を用いて考えることができる。 ・力のつりあいを用いて，さまざまな形状の剛体の重心を考えることができる。 ・物体を傾けたときに転倒する条件について，力のモーメントのつりあいから調べることができる。 ・運動量がベクトルであることを理解し，運動量の変化と力積との関係について説明することができる。 ・F－tグラフから物体が受ける力積の大きさや，平均の力を的確に読み取ることができる。 ・作用・反作用の法則を用いて，物体が衝突や分裂をしたときの運動量保存の法則を考えることができる。 ・連結した2台の台車を分裂させたときの運動のようすから，運動量が保存されることを考察することができる。 ・反発係数を理解し，衝突における力学的エネルギーの変化を考えることができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・質点と剛体の違いを踏まえ，剛体にはたらく力のはたらきについて意欲的に考察しようとする。 ・重心を表す式を利用して，さまざまな形状の剛体で重心の位置を調べようとする。 ・日常での経験と照らし合わせて力のモーメントを考え，物理学的に理解しようとする。 ・運動量の意味について，キャッチボールやボウリングなどの身近な例をもとに理解しようとする。 ・運動量の変化と力積との関係を用いて，さまざまな条件でおこる衝突について，運動量保存の法則を意欲的に導出しようとする。 ・運動量保存の法則の式を用いて，物体の合体や分裂について，考察しようとする。 ・ボールが跳ね返るときのようすに関心をもち，その現象を物理的に考えようとする。	課題への取り組み 授業態度			

6月	第Ⅰ章　運動とエネルギー 第4節　円運動と単振動 第5節　気体の性質と分子の運動	15	①　知識・技能 ・等速円運動をする物体の速度，角速度，加速度，向心力などの定義を理解し，それぞれを式で表すことができる。 ・観測者が非慣性系にあるとき，慣性力がはたらくことを理解し，その大きさを求めることができる。 ・単振動する物体にはたらく力を把握し，復元力の式を求めることができる。 ・単振り子の周期を測定し，その値が単振り子の長さだけで決まることを導くことができる。 ・人工衛星などの物体の円運動について運動方程式を立て，各物理量を計算で求めることができる。 ・万有引力による位置エネルギーを求め，物体の力学的エネルギーを求めることができる。 ・ボイルの法則，シャルルの法則を用いて，ボイル・シャルルの法則を導くことができる。 ・気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて，計算することができる。 ・分子の運動をもとにして，気体の圧力を導出する。 ・水を入れた小型ポットを激しく振って水温を上昇させる実験を通して，気体の内部エネルギーと温度の関係を調べる。 ・気体の状態変化に熱力学の第1法則を適用し，エネルギーの出入りを考えることができる。 ・熱機関の熱効率を計算で求めることができる。	小テスト 定期考査	・等速円運動の角速度，周期，回転数，速度を学習し，加速度と向心力を理解する。 ・遠心力を含めた慣性力を学習し，物体にはたらく力を異なる観測者の立場で把握できるようにする。 ・単振動と等速円運動の関係から，速度や加速度，復元力を表す式について理解する。 ・ばね振り子や単振り子について，物体が受ける力を把握し，周期を導出できるようにする。 ・ケプラーの法則，万有引力の法則を学習し，万有引力と重力の関係を定量的に理解する。 ・万有引力による位置エネルギーを学習し，物体の力学的エネルギーについて理解する。・ ・ボイルの法則やシャルルの法則などの気体に関する法則を学習し，理想気体の状態方程式について理解する。 ・これまで巨視的な扱いをしてきた気体の圧力について，分子レベルでの考え方を理解する。 ・気体の内部エネルギー，気体の体積変化に伴う仕事を学習し，熱力学の第1法則を理解する。 ・定積変化や定圧変化などの気体の状態変化を学習し，各状態変化で熱力学の第1法則を適用できるようにする。 ・熱機関の熱効率を復習し，気体の状態変化と関連させて理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 体育 化学
			②　思考・判断・表現 ・等速円運動をさせたときの水滴の様子から，円運動における速度の向きを考えることができる。 ・向心力の意味を理解し，等速円運動する物体にはたらく力を的確に図示することができる。 ・観測者の立場によって生じる，運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。 ・等速円運動と比較することによって，単振動の変位や速度などの式を導くことができる。 ・単振動する物体のようすを，グラフを用いて説明することができる。 ・ケプラーの法則を用いて，万有引力の法則を導いた過程について理解し，重力との関係を式で表すことができる。 ・万有引力がする仕事との関係をもとに，万有引力による位置エネルギーの式を導くことができる。 ・気体の圧力が生じる原因を把握し，気体に関する各法則を考えることができる。 ・気体の状態方程式を用いて，さまざまな条件における気体の状態を考えることができる。 ・運動量と力積の関係を用いて，気体分子の運動をもとに，気体の圧力を導くことができる。 ・気体の状態変化について，p－Vグラフから的確に読み取ることができる。 ・気体の状態変化について，その変化の違いを熱力学の第1法則を用いて説明することができる。 ・熱力学の第1法則や，気体の状態方程式を用いて，定積モル比熱や定圧モル比熱を考えることができる。 ・熱機関のしくみを理解し，熱効率を考えることができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・角速度，周期，回転数などの関係式を，自ら進んで導出しようとする。 ・等速円運動をしている物体の，向心力と角速度との関係を主体的に調べようとしている。 ・遠心力などの慣性力について，身近な例と結びつけて意欲的に考えようとする。 ・単振動における変位，速度などの式を意欲的に導出しようとする。 ・ケプラーの法則，万有引力の法則について学習し，万有引力と重力の関係を自ら進んで考えようとする。 ・万有引力を受けて運動する物体の力学的エネルギーについて，意欲的に考えようとする。 ・ボイル･シャルルの法則を利用して，気体の状態方程式を導出する過程を理解しようとする。 ・日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積，温度の関係を考え，物理学的に理解しようとしている。 ・気体の分子運動と圧力との間にどのような関係があるかを予想し，主体的に導こうとしている。 ・圧縮発火器の原理について，気体の状態変化におけるエネルギーの出入りと結びつけ，意欲的に考察しようとしている。 ・気体の状態変化での熱効率の算出に意欲的に取り組む。 ・熱機関の製作の探究などに主体的に取り組み，熱効率を上げる方法を考えようとしている。	課題への取り組み 授業態度			

7月	第Ⅱ章　波動 第1節　波の性質 第2節　音波	15	①　知識・技能 ・位相が表すものを理解し，正弦波を式で表すことができる。 ・重なりあった波の作図などを通して，定常波ができる条件を理解している。 ・水面波の干渉の条件について，式を用いて理解する。 ・水波投影装置を用いて，平面波の反射，屈折のようすを観察し，反射の法則，屈折の法則を定性的に調べることができる。 ・波の回折は，すき間の大きさや波長によって違いが生じることを理解している。 ・第1節で学習した反射の法則や屈折の法則，波の干渉条件などを，音波に適用して理解する。 ・音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について，式を用いて理解する。	小テスト 定期考査	・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，正弦波の式，位相について理解する。 ・y－xグラフ，y－tグラフのそれぞれの特徴について理解する。 ・水面波の干渉を学習し，ホイヘンスの原理，平面波の反射・屈折，波の回折など，波の伝わり方について理解する。 ・「物理基礎」で学習した音の速さを復習し，反射･屈折･回折･干渉など，音波の性質や伝わり方について理解する。 ・波源の移動と波長の変化を学習し，音源や観測者が動くさまざまな場合のドップラー効果について，式を用いて理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 音楽
			②　思考・判断・表現 ・正弦波の波形と波の式を結びつけて考えることができる。 ・y－xグラフ，y－tグラフから，振幅や周期，波長などの物理量を読み取ることができる。 ・y－xグラフ，y－tグラフの関係と違いを理解し，一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。 ・ホイヘンスの原理を用いて，平面波の反射や屈折を考え，説明することができる。 ・平面波の回折のしくみを考え，大きく回折する条件について説明することができる。 ・音が波であることを踏まえ，反射や屈折，回折などの音波の性質を考えることができる。 ・クインケ管を用いた探究などを通して，干渉のようすから音速および音波の波長を測定することができる。 ・音波の伝わる速さが音源の速度に関係しないことから，ドップラー効果によって変化する波長や振動数を導出することができる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・「物理基礎」で学習した内容をもとに，正弦波の式を意欲的に導出しようとしている。 ・身のまわりの波に関する現象に関心をもち，物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。 ・ホイヘンスの原理を用いて，平面波の反射･屈折における法則性を考えようとする。 ・音が伝わるようすに関心をもち，音波の反射･屈折・回折・干渉について考えようとする。 ・クインケ管を用いた探究など，積極的に探究活動に取り組んでいる。 ・身近な現象と結びつけてドップラー効果を理解し，波長や振動数の変化を物理学的にとらえようとする。	課題への取り組み 授業態度			
8月	第Ⅱ章　波動 第3節　光波	15	①　知識・技能 ・光が波の一種であり，波長の大きさなどによって分類されることを知る。 ・光の速さを把握し，反射の法則，屈折の法則の式を理解する。 ・光の分散，散乱，偏光など，波としての光の性質を理解する。 ・凸レンズや凹レンズ，凸面鏡や凹面鏡のそれぞれの性質を知る。 ・レンズの式を理解し，実像ができる条件，虚像ができる条件など，レンズの一般的な特徴を理解する。 ・球面鏡の式を理解し，実像ができる条件，虚像ができる条件など，球面鏡の一般的な特徴を理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉など，さまざまな光の干渉条件について式を適用する。		・光が波の一種であることを学習し，その種類を理解する。 ・光の速さを学習し，反射，屈折，全反射などの光の進み方について理解する。 ・光の分散，散乱，偏光など，光の性質について理解する。 ・レンズや鏡の基本的な性質を学習し，実像，虚像のでき方のしくみについて，式を用いて理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉を学習し，薄膜による干渉，くさび形空気層による干渉など，さまざまな場合における光の干渉条件を理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・フィゾーの実験の原理を理解し，光速の導出方法を説明することができる。 ・光が波であることを踏まえ，光の反射･屈折などの性質を考察できる。 ・光の波長と屈折率の関係を理解し，光の分散，散乱などの性質を考察できる。 ・凸レンズや凹レンズ，凸面鏡や凹面鏡の基本的な性質を学習し，光の進み方，像のできる条件などを説明できる。 ・ヤングの実験，回折格子による光の干渉を学習し，薄膜，くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。 ・レーザーポインタと二重スリットを用いた光の干渉に関する探究などを通して，レーザー光の波長と干渉縞の間隔との関係を考察できる。				
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・光について関心をもち，身のまわりの事象や現象と結びつけ，波としてどのような性質をもつのかを理解しようとする。 ・虹のできるしくみや，青空，夕陽の色の見え方について関心をもち，光と色の関係を考えようとする。 ・レンズを通したものの見え方に興味をもち，物理学的にとらえようとしている。 ・光の干渉を利用して，光の波長を求める方法にについて意欲的に考えようとする。				

9月	第Ⅲ章　電気と磁気 第1節　電場と電位 第2節　電流	10	①　知識・技能 ・静電気力に関するクーロンの法則を理解し，さまざまな条件で電場の強さを計算できる。 ・電位を計算し，等電位面と電気力線の関係を理解する。 ・静電誘導，誘電分極を踏まえ，電場中の導体，不導体における電場，電位のようすを理解する。 ・コンデンサーにおける基本的な公式を理解し，さまざまな条件における電気容量やたくわえられる電荷を求めることができる。 ・静電エネルギーの式の導出過程を理解し，エネルギーを求めることができる。 ・電子の運動をもとに，オームの法則やジュール熱などの式を導き，各物理量を計算できる。 ・キルヒホッフの法則をもとに，ホイートストンブリッジや電位差計の回路のしくみを理解する。 ・ホイートストンブリッジの原理を利用して，未知の電気抵抗を測定できる。 ・非直線抵抗を含む回路での電流，電圧の関係をグラフから読み取り，理解する。 ・キャリアの役割を踏まえ，ダイオードや太陽電池のはたらきを理解する。	小テスト 定期考査	・電荷や帯電，電気量保存の法則などを学習し，静電気力について定量的に理解する。 ・導体，不導体，半導体を区別し，静電誘導，誘電分極のしくみを理解する。 ・電場の基本的な性質を学習し，電場と電気力線の関係，一様な電場につて理解する。 ・電位の基本的な性質を学習し，等電位面と電気力線の関係について理解する。 ・コンデンサーの原理を学習し，平行板コンデンサーの電気容量，誘電体，誘電率について理解する。 ・コンデンサーを接続したときの合成容量，静電エネルギーについて理解する。 ・電子の運動をもとにした，オームの法則の導出過程を理解する。 ・電流計，電圧計，電池の内部抵抗について理解し，さまざまな回路において，キルヒホッフの第1，2法則を適用する。 ・ホイートストンブリッジや電位差計のしくみを学習し，非直線抵抗やコンデンサーを含む回路について理解する。 ・半導体の性質を学習し，ダイオードや太陽電池のしくみについて理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・静電誘導，誘電分極のしくみを説明することができる。 ・電場と電気力線の関係を理解し，帯電体に出入りする電気力線を定量的に考えることができる。 ・直流電源装置と黒色画用紙を用いた探究を通して，得られた等電位線から電気力線のようすを図示することができる。 ・帯電した金属板間の導体や不導体について，電場や電位のようすをグラフに表すことができる。 ・コンデンサーにたくわえられる電気量と，極板の面積，極板間の距離との関係を導くことができる。 ・コンデンサーの極板間の電場や電位差など，各量について，誘電体による変化を考察できる。 ・導体中における自由電子の運動に着目し，抵抗や抵抗率との関係を考察できる。 ・キルヒホッフの法則を理解し，さまざまな回路での電流，電圧を考えることができる。 ・すべり抵抗器と乾電池を用いた探究などを通して，電池の起電力と内部抵抗を測定できる。 ・半導体でのキャリアの動きを考え，ダイオードや太陽電池での電流の流れるようすを説明できる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，静電気力，電場，電気力線の性質について意欲的に考えようとする。 ・電場や電位の関係，等電位面と電気力線の関係，静電誘導，誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。 ・コンデンサーの原理や，誘電体によって変化するコンデンサーの電気容量などについて，自ら進んで考えようとしている。 ・電池のする仕事と静電エネルギーの関係について，意欲的に考える。 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，電子の運動というミクロな視点で，オームの法則について意欲的に考えようとしている。 ・電流計，電圧計などの各計器の内部抵抗について，その役割を理解しようとしている。 ・各回路に対して，キルヒホッフの法則の適用方法を導こうとしている。 ・身のまわりで使用されている半導体に関心をもち，ダイオードや太陽電池における，電子の運動を考えようとしている。	課題への取り組み 授業態度			
10月	第Ⅲ章　電気と磁気 第3節　電流と磁場	15	①　知識・技能 ・磁極間にはたらく磁気力の大きさ，電流のまわりに生じる磁場の強さを計算できる。 ・電流が磁場から受ける力の向きを，フレミングの左手の法則などを用いて考えることができる。 ・磁場中で電流が受ける力の大きさを求めることができる。 ・磁束密度と磁場の関係を定量的に把握し，磁化の性質を理解する。 ・電流どうしがおよぼしあう力の向きや大きさを求めることができる。 ・荷電粒子にはたらくローレンツ力の大きさや向きを理解する。	小テスト 定期考査	・磁気力に関するクーロンの法則を学習し，電流がつくる磁場の強さと磁力線の概形について理解する。 ・磁場中で電流が受ける力について，フレミングの左手の法則や右ねじの関係を用いて定量的に理解する。 ・磁束密度と磁場との関係，磁化の性質を理解し，平行電流間にはたらく力を定量的に理解する。 ・ローレンツ力について学習し，磁場中に入射した粒子の運動を理解する。 ・ローレンツ力を踏まえて，電子の運動に着目し，ホール効果のしくみを理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・磁極や電流のまわりにできる磁場について，右ねじの法則をもとにして考えることができる。 ・電気ブランコの観察において，電流が磁場から受ける力の向きを調べることができる。 ・電流間で力が生じることを，右ねじの法則などを用いて理解する。 ・ローレンツ力の性質をもとに，荷電粒子の運動を考えることができる。 ・ローレンツ力の性質を把握することで，金属中の電子の運動をもとにホール効果について考察できる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・電場との対比から，磁場の性質を学習し，「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，電流のまわりにできる磁場について意欲的に考える。 ・電流が磁場から受ける力の向きや大きさ，磁束密度や磁場の関係を意欲的に理解しようとする。 ・平行電流間がおよぼしあう力の大きさを自ら進んで導出しようとする。 ・磁場中の荷電粒子の運動について意欲的に考察しようとする。 ・ホール効果の現象を，電子の動きに着目して理解しようとする。	課題への取り組み 授業態度			

11月	第Ⅲ章　電気と磁気 第4節　電磁誘導と交流	15	①　知識・技能 ・さまざまな電磁誘導の現象において，誘導起電力の大きさと向きを考えることができる。 ・磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力を計算することができる。 ・ネオジム磁石でつくった振り子を用いて，渦電流について調べ，材質による違いを知る。 ・電磁誘導のしくみを理解し，自己誘導，相互誘導での起電力の向きや大きさを導くことができる。 ・交流が発生するしくみを理解し，抵抗，コイル，コンデンサーの交流の性質を定量的に理解する。 ・電気振動のエネルギーの移り変わりについて，式で表すことができる。 ・磁場と電場の関係を把握し，電磁波の発生と結びつけて理解する。	小テスト 定期考査	・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し，磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 ・磁場中を動く導体に生じる起電力や，導体を動かすのに要する力，仕事の関係を理解する。 ・自己誘導，相互誘導の現象を理解し，生じる起電力を計算する。 ・交流の発生のしくみを理解し，交流回路における抵抗，コイル，コンデンサーの特性を理解する。 ・電気振動の現象をエネルギーの観点から把握し，固有振動数の式を理解する。 ・変圧器のしくみを理解する。 ・磁場と電場の関係，電磁波の性質や種類を学習し，電磁波がその波長に応じてさまざまなものに利用されていることを理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学
			②　思考・判断・表現 ・コイルに棒磁石を近づけたり，遠ざけたりする実験の結果から，ファラデーの電磁誘導の法則を見出して理解する。 ・コイルにたくわえられるエネルギーの式を導出することができる。 ・コイルを貫く磁束の変化から，交流の発生を考えることができる。 ・抵抗，コイルなどに生じる交流電圧，電流の関係を，キルヒホッフの法則を用いて考えることができる。 ・電気振動において，固有振動数やエネルギーのやりとりを考察できる。 ・電磁波の性質から，利用されている身近なものを考える。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，実験に主体的に取り組み，電磁誘導の法則を理解しようとする。 ・自己誘導や相互誘導の現象の学習に意欲的に取り組む。 ・交流が発生するしくみに関心をもち，抵抗，コイル，コンデンサーの特性を考えようとする。 ・直列共振回路の性質や電気振動の現象を意欲的に理解しようとする。 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，身のまわりで利用されている電磁波と照らし合わせながら，電磁波の種類と性質を自ら進んで考えようとする。	課題への取り組み 授業態度			
12月	第Ⅳ章　原子 第1節　電子と光 第2節　原子と原子核	10	①　知識・技能 ・電子の性質が解明されるまでの研究について，定量的に理解する。 ・光電効果の特徴やその実験過程を理解し，仕事関数や光電子の最大運動エネルギーを計算できる。 ・X線の最短波長を計算し，ブラッグの反射条件の式を理解して，適用することができる。 ・コンプトン効果において，入射X線と散乱X線の波長の差を示す式を導出できる。 ・物質波の意味を理解し，その波長や運動量の関係式を理解する。 ・ボーアの原子模型の特徴を理解し，水素原子の電子軌道や，エネルギー準位とスペクトルとの関係について理解する。 ・統一原子質量単位を理解し，さまざまな原子の原子量を計算できる。 ・質量欠損や結合エネルギー，核反応で出入りするエネルギーをそれぞれ計算で求めることができる。 ・素粒子の分類を理解し，クォークやレプトンの特徴を把握する。 ・自然界における基本的な力の種類と性質について知る。	小テスト 定期考査	・電子の発見からその性質が解明されるまでの歴史的な背景において，トムソンやミリカンの実験について理解する。 ・光電効果とその特徴を学習し，光電子の運動エネルギーと仕事関数との関係を定量的に理解する。 ・光子を用いたアインシュタインの考えによって，光電効果が説明できることを理解する。 ・X線の発生とその原理を学習し，特性X線や連続X線，最短波長などについて理解する。 ・ラウエやブラッグの実験を学習し，エネルギー保存の法則や，運動量保存の法則を用いて，コンプトン効果を定量的に理解する。 ・物質波について学習し，弱い光源によるヤングの実験をもとに，粒子と波動の二重性を理解する。 ・これまでに提唱された原子模型と，各模型の特徴を理解する。 ・ラザフォードの原子模型の難点を把握し，ボーアの水素原子模型の特徴を理解する。 ・水素原子における電子の軌道半径やエネルギー準位について，式を用いて理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し，反応の際に放出，吸収されるエネルギーを理解する。 ・素粒子に関する研究の歴史を踏まえ，クォークとレプトン，自然界の基本的な力を学習して，素粒子の研究と宇宙の進化の解明を結びつけて理解する。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習 ・演示実験及び生徒実験の考察	数学 化学
			②　思考・判断・表現 ・トムソンやミリカンの実験について，電場や磁場の関係式を適用し，電子の運動を説明できる。 ・光電効果における光の強さと光電子の数，振動数と運動エネルギーなどの関係を考察できる。 ・光電効果の実験結果を，アインシュタインの提唱した光量子仮説から説明できる。 ・発光ダイオードを利用した探究などを通して，プランク定数を測定できる。 ・X線の波動性や粒子性を示す実験を理解し，結論を導くまでの過程を式を用いて考えることができる。 ・物質粒子の質量と波長などの関係式を用いて，さまざまな物質波の波長を考えることができる。 ・ボーアの量子条件と物質波による考え方との関係を結びつけて考える。 ・同位体と存在比との関係から，原子量の計算方法を考えることができる。 ・半減期のモデル実験を理解し，原子核の数や経過時間との関係について考察することができる。 ・探究などを通じて，空気中に含まれるおもな放射性物質とその半減期を調べる。 ・質量とエネルギーの等価性を理解し，核反応によるエネルギーの吸収・放出の関係を考えることができる。 ・核分裂の現象を踏まえ，原子力発電の基本的な原理を理解する。 ・素粒子の性質を踏まえて，それらを系統的に分類する。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・これまでに学習した荷電粒子の運動をもとに，トムソンやミリカンの実験のしくみを考え，式を用いて理解しようとしている。 ・光電効果の特徴について，その実験過程から意欲的に意味を理解しようとする。 ・レントゲン写真などの身近なものと結びつけて，X線の性質を考えようとする。 ・これまでに学習した法則をもとに，コンプトン効果でのX線光子，電子の運動を意欲的に考えようとする。 ・光やX線がもつ粒子性を，電子のような粒子の波動性に結びつけて考えようとする。 ・原子の構造を解明しようとする歴史的な背景に関心を示し，理解しようとしている。 ・ボーアの原子模型に関心をもち，水素原子のスペクトルを考えようとする。 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，原子核の構成や放射線の性質を考えようとする。 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ，核反応におけるエネルギーを定量的に理解しようとしている。 ・素粒子の研究と宇宙の進化の解明とのつながりに関心をもち，意欲的に理解しようとしている。	課題への取り組み 授業態度			
1月	共通テスト対策	10	①　知識・技能 物理基礎及び物理で学習した公式を理解し，適切に利用して基本的な問題を解くことができる。	小テスト 定期考査	共通テストの過去問や対策問題集を用いて実践的な問題演習を行い、これまでの学習を振り返る。 実験の設定文やグラフから問題設定や状況を正しく読み取り、制限時間内に正確に解く練習をする。	・発問への発表 ・グループワークによる問題演習	数学
			②　思考・判断・表現 問題文や図を適切に読み取り，与えられた条件や導くべき値について物理的に考察できる。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 物理基礎及び物理で学習した内容を意欲的に復習し，物理的な視点から問題を解こうとする。	課題への取り組み 授業態度			
指導時間数の計		120					

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （理科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、自然現象に対する基本的な原理・法則を理解する。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自然の事物・現象から問題を見出し、その結果を個人でまとめ、他者との意見交換などを通して、より科学的な概念を形成する。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 自然を敬い、自然現象に進んで関わり、科学的根拠に基づいて判断する態度を身につけ、日常生活における問題発見や課題解決の場面で活かせる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
化学	4	全日制・普通科・3学年	新編化学（数研出版）

科目の目標	(1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 3週 ～ 4週	化学反応の速さとしくみ	10	①　知識・技能 化学反応の速さの表し方とともに、反応速度と反応条件の関係や反応のしくみ、触媒の利用について理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	化学における反応速度の定義を理解する。 実験結果の例を参考に、反応速度を求める。 反応速度に関わる要因として、温度・濃度・触媒があることを理解する。 活性化エネルギーの大小と反応速度の関係について理解する。	反応速度vはどのような式で表されるかを説明する。	
			②　思考・判断・表現 実験データから速度定数を求めることができる。 反応のしくみを活性化エネルギーと関連付けて説明できる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 身のまわりにある速い反応と遅い反応に興味をもつ。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
4月 5週 ～ 5月 5週	化学平衡	22	①　知識・技能 可逆反応と化学平衡、ルシャトリエの原理に基づく平衡移動について理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	可逆反応、化学平衡、平衡状態の考え方を理解する。 平衡定数を用い、化学平衡における量的関係を求める。 平衡がどちらに移動するかを、ルシャトリエの原理に基づいて判断する。 電離平衡、電離定数、弱酸の遊離、塩の加水分解を理解する。 緩衝液の性質を説明する。 溶解度積を用いて量的計算をする。	条件を変化させた際に平衡がどちらに移動するか話し合う。	数学科 地歴公民科
			②　思考・判断・表現 平衡移動の考え方の工業的製法への適用について考える。 電離平衡について理解し、電離度や濃度との関係やそれらを利用してpHを求めることができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 身のまわりにある緩衝液や沈殿の生成について関心をもつ。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			
6月 1週 ～ 3週	非金属元素	12	①　知識・技能 周期表を用いた元素の分類を理解する。 非金属元素の単体とその化合物の性質、製法、利用法等を理解する。	定期考査 小テスト ワークシート・レポート	周期表からわかることを復習する。 非金属元素の単体とその化合物の性質、製法、利用法等をレポートにまとめる。	レポートを発表する。	
			②　思考・判断・表現 工業的製法について理解し、量的計算を行うことができる。	定期考査 小テスト ワークシート・レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 無機物質の工業的製法に興味をもち、深く調べようとする。	授業態度観察 ノート・プリント・レポート・ワーク提出			
6月 4週 ～ 5週	金属元素（Ⅰ） －典型元素－	6	①　知識・技能 典型金属元素の単体とその化合物の性質や沈殿反応を理解する。	定期考査 小テスト ワークシート・レポート	典型金属元素の単体とその化合物の性質、製法、利用法等をレポートにまとめる。	レポートを発表する。	地歴公民科
			②　思考・判断・表現 アンモニアソーダ法、カルシウムの反応、両性元素の性質を説明できる。	定期考査 小テスト ワークシート・レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 典型金属元素の単体やその化合物に興味をもり、深く調べようとする。	授業態度観察 ノート・プリント・レポート・ワーク提出			
7月 1週 ～ 3週	金属元素（Ⅱ） －遷移元素－	12	①　知識・技能 遷移元素の特徴を理解する。 錯イオンの名称、書き方、配位数、形を理解する。	定期考査 小テスト ワークシート・レポート	遷移元素の単体とその化合物の性質、製法、利用法等をレポートにまとめる。	レポートを発表する。	
			②　思考・判断・表現 金属イオンの系統分離、確認ができる。	定期考査 小テスト ワークシート・レポート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 遷移元素の単体やその化合物に興味をもち、いろいろな分離法を考えようとする。	授業態度観察 ノート・プリント・レポート・ワーク提出			
9月 2週	有機化合物の分類と分析	4	①　知識・技能 有機化合物の特徴を理解する。 有機化合物の分析の手順や検出法を理解する。	定期考査 小テスト ワークシート	有機化合物の考え方をしっかり身に付ける。	元素分析の実験装置において、塩化カルシウム管とソーダ石灰管の位置を逆にした際に何が起きるかを話し合う。	
			②　思考・判断・表現 炭素骨格での分類や、官能基の違いによる分類を理解し、元素分析に結果から分子式や構造式を求めることができる。	定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表			
			③　主体的に学習に取り組む態度 有機化合物の特徴や分類に興味をもつ。	授業態度観察 ノート・プリント・ワーク提出 振り返りシート			

9月 3週 ～ 5週	脂肪族炭化水素	11	①　知識・技能 アルカン・アルケン・アルキンの立体構造や反応を理解する。 ②　思考・判断・表現 与えられた分子式から構造異性体や立体異性体が書ける。 ③　主体的に学習に取り組む態度 身のまわりにある有機化合物に興味をもつ。	定期考査 小テスト ワークシート 定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表 授業態度観察 ノート・プリント・ ワーク提出 振り返りシート	有機化合物の異性体の考え方を理解し、構造式を書く。 有機化合物の反応である置換反応や付加反応を理解する。	指定された分子式の構造異性体について、構造式や名称を話し合う。	
10月 1週 ～ 4週	アルコールと関連化合物	16	①　知識・技能 官能基の違いを理解し、構造式、名称、分類、性質、反応性を理解する。 ②　思考・判断・表現 官能基の違いによる異性体や分類、反応、性質、製法を説明できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 身のまわりにある有機化合物に興味をもつ。	定期考査 小テスト ワークシート 定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表 授業態度観察 ノート・プリント・ ワーク提出 振り返りシート	アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステルの特徴や性質をまとめる。	実験結果から反応物や生成物の構造式を推定し、話し合う。	家庭科
11月 1週 ～ 5週	芳香族化合物	20	①　知識・技能 ベンゼン環の構造とその特徴を理解する。 フェノール、アニリンの製法や性質を理解する。 ②　思考・判断・表現 ベンゼンを出発点として芳香族化合物の性質をまとめ、分離の考え方につなげることができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 芳香族化合物に興味をもつ。	定期考査 小テスト ワークシート 定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表 授業態度観察 ノート・プリント・ ワーク提出 振り返りシート	芳香族化合物の特徴や性質をまとめる。	芳香族化合物の混合物を分離する方法について話し合う。	
12月 1週	高分子化合物の構造と性質	4	①　知識・技能 高分子化合物の定義、分類、特徴を理解する。 ②　思考・判断・表現 重合の方法や分子量などについて説明できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 高分子化合物に興味をもつ。	定期考査 小テスト ワークシート 定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表 授業態度観察 ノート・プリント・ ワーク提出 振り返りシート	高分子化合物の考え方をしっかり身に付ける。	身近な高分子化合物について話し合う。	
12月 2週 ～ 3週	天然高分子化合物	10	①　知識・技能 単糖と二糖、多糖の構造、性質、反応を理解する。アミノ酸とタンパク質の構造、性質、反応を理解する。核酸について理解する。 ②　思考・判断・表現 糖類の加水分解や還元性の有無、アミノ酸の等電点について説明できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 天然高分子化合物に興味をもつ。	定期考査 小テスト ワークシート 定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表 授業態度観察 ノート・プリント・ ワーク提出 振り返りシート	糖類、アミノ酸とタンパク質、核酸の構造や性質をまとめる。	身近な天然高分子化合物について話し合う。	家庭科
1月 2週 ～ 3週	合成高分子化合物	9	①　知識・技能 合成樹脂、合成繊維、合成ゴムの性質や製法、利用法などを理解する。 ②　思考・判断・表現 合成繊維の構造式が書け、量的計算ができる。 イオン交換樹脂を理解する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 合成高分子化合物に興味をもつ。	定期考査 小テスト ワークシート 定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表 授業態度観察 ノート・プリント・ ワーク提出 振り返りシート	合成繊維の製法や名称を理解する。 熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂の違いを理解する。 合成ゴムの利用例を理解する。	身近な合成高分子化合物について話し合う。	家庭科
1月 4週	化学とともに歩む	4	①　知識・技能 化学で学んだことと自分たちの生活の結びつきについて理解する。 ②　思考・判断・表現 身のまわりにある物質、身のまわりで起こる現象を学んだ内容で説明できる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 化学が自分たちの生活や社会における課題を解決できるか考える。	定期考査 小テスト ワークシート 定期考査 小テスト ワークシート 話し合い・発表 授業態度観察 ノート・プリント・ ワーク提出 振り返りシート	グループごとにテーマを決め、課題研究を行う。	研究を発表する。	
指導時間数の計		140					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （理科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
生物基礎探究	2	全日制・普通科・3学年	サイエンスビュー 生物総合資料（実教出版）
科目の目標	○生物基礎の内容について、ミクロスケールからマクロスケールまでの幅広い視点から共通性と多様性という特徴について理解を深め、大学入学共通テスト等を意識したより実践的な学力を身につける。（知識及び技能） ○文章や図表などから必要な情報を読み取り、選択するとともに、生物学的な知識に基づき論理的に考察し、自身の言葉で説明できるような科学的思考力や言語能力を身につける。（思考力、判断力、表現力等） ○自ら生物学的事象に興味・関心をもち、積極的に学びに取り組むとともに、自身の日常生活において問題発見や課題解決において科学的・論理的な思考・判断を行うことが出来るとともに、自然を敬い、生命を尊重する態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～5月	第1章　生物の特徴	13	①　知識・技能 ・生物のもつ共通性と多様性について理解をし、生物の多様性が進化により獲得されたことが理解できる。 ・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解し、ATPの合成と分解を介したエネルギーの変換について理解できる。	確認テスト ワークシート	・生物の共通性と多様性という性質を理解し、生物とはなにかを生徒自身の言葉で説明する。 ・真核細胞と原核細胞の構造を理解し、その違いを生徒自身の言葉で説明する。 ・光学顕微鏡による細胞の観察を通して光学顕微鏡の扱い方を理解し、実際に操作ができる。 ・代謝の例として呼吸と光合成について理解し、ATPの合成と分解を介したエネルギーの変換について生徒自身の言葉で説明する。 ・酵素のもつ基質特異性や最適温度、最適pH等の性質を理解し、酵素を用いた実験問題の結果を論理的に推測する。 ・問題演習を通して、知識に基づき論理的に考察を行い解答できる。	・各設問等の問題文を正しく読み取り、自身の解答の根拠を自身の言葉で論理的に説明する。 ・細胞の観察の結果を自身の言葉でレポートにまとめ、他者の前で発表ができる。 ・分らないことなどを先生や周囲の生徒に質問、相談したり、他の生徒へと教えたりしながら問題演習に取り組む。	【理科（生物）】 【理科（化学基礎）】
			②　思考・判断・表現 ・生物の共通性と多様性という性質に基づき、「生物」とはなにかを生徒自身の言葉で表現できる。 ・酵素のもつ性質を理解し、それに基づき論理的に考察し、実験の結果等を推測することができる。 ・文章や図表などから必要な情報を読み取り、知識に基づいた論理的な考察を行うことができる。	確認テスト 実験のレポート ワークシート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・生物の共通性や多様性と進化や生命活動におけるエネルギーの利用と変換について興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	ワークシート 実験のレポート 振り返りシート			
6月 ～9月	第2章　遺伝子とそのはたらき	17	①　知識・技能 ・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を理解できる。 ・生命活動におけるタンパク質の役割を理解し、DNAの遺伝情報からタンパク質が合成される過程や仕組みについて理解できる。	確認テスト ワークシート	・DNAの構造を理解し、遺伝子としての情報は塩基配列にあることを理解する。またタンパク質合成において塩基配列がアミノ酸の配列に読み替えられる過程を理解する。 ・塩基のもつ相補性を正しく理解し、シャルガフの規則やDNAの半保存的複製、転写等の過程・仕組みを考察する。 ・グリフィスとエイブリーやハーシーとチェイス、メセルソンとスタールなどの行った歴史的に有名な実験について、実験の解釈や意義を論理的に考察し、生徒自身の言葉で説明する。 ・問題演習を通して、知識に基づき論理的に考察を行い解答できる。	・各設問等の問題文を正しく読み取り、自身の解答の根拠を自身の言葉で論理的に説明する。 ・グリフィスとエイブリーやハーシーとチェイス、メセルソンとスタールなどの行った歴史的に有名な実験について、実験の解釈や意義を論理的に考察し、生徒自身の言葉でまとめ、他者の前で発表ができる。 ・分らないことなどを先生や周囲の生徒に質問、相談したり、他の生徒へと教えたりしながら問題演習に取り組む。	【理科（生物）】 【理科（化学基礎）】
			②　思考・判断・表現 ・塩基の相補性の性質を用いて、タンパク質合成やDNAの半保存的複製の仕組み等を考察することができる。 ・グリフィスとエイブリーやハーシーとチェイス、メセルソンとスタール等の行った実験の解釈や意義について論理的に考察し、生徒自身の言葉で説明できる。 ・文章や図表などから必要な情報を読み取り、知識に基づいた論理的な考察を行うことができる。	確認テスト 課題への取り組み ワークシート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・遺伝情報を担うDNAの性質や構造、DNAの遺伝情報に基づき作られるタンパク質の性質や構造に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	ワークシート 課題への取り組み 振り返りシート			

9月 ～10 月	第3章　ヒトの体内環境の維持	17	①　知識・技能 ・ヒトの体内環境の恒常性の維持において神経系や内分泌系の果たす役割や関係性を理解できる。 ・内分泌系におけるフィードバックの仕組みや役割を理解できる。 ・ヒトに備わった免疫の役割や仕組みを理解できる。 ・免疫の仕組みと病気や医療との関係を理解できる。	確認テスト ワークシート	・ヒトの体内における情報伝達の手段として神経系と内分泌系の二つがあることを理解し、神経系と内分泌系の違いを理解する。 ・ホルモンの種類やそれぞれの役割を理解するとともに、フィードバックとよばれる仕組みにより分泌量が調節されていることを理解する。 ・自然免疫と獲得免疫の機能や役割の違いを理解する。 ・各免疫細胞のはたらきと免疫寛容や免疫記憶の関係性を理解するとともに、その必要性を理解する。 ・免疫の仕組みと病気や医療との関係性を理解し、アレルギーや予防接種、血清療法などの仕組みと意義を理解する。	・各設問等の問題文を正しく読み取り、自身の解答の根拠を自身の言葉で論理的に説明する。 ・知っている病気の原因や対策、治療法などを調べ、それが恒常性の維持や免疫とどのように関わっているかを生徒自身の言葉でまとめ、他者の前で発表ができる。 ・分らないことなどを先生や周囲の生徒に質問、相談したり、他の生徒へと教えたりしながら問題演習に取り組む。	【理科（生物）】 【保健体育科（保健）】 【家庭科（家庭基礎）】
			②　思考・判断・表現 ・学習した知識に基づいて、日常生活で見られる様々な病気と恒常性の維持や免疫との関係を論理的に考察し、生徒自身の言葉で説明できる。 ・文章や図表などから必要な情報を読み取り、知識に基づいた論理的な考察を行うことができる。	確認テスト ワークシート 課題への取り組み			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・ヒトの体内環境の維持にかかわる神経系や内分泌系の役割やはたらき、異物の侵入から生体を保護している免疫の仕組みに興味を持ち、実際の病気や医療における活用の例などと関連付けて、主体的に学習に取り組むことができる。	ワークシート 課題への取り組み 振り返りシート			
11月 ～12 月	第4章　生物の多様性と生態系	15	①　知識・技能 ・条件によって植生に差異が生じることや植生が遷移によって時間とともに変化していくことを理解できる。 ・生物の多様性や生態系における関係性を理解し、生態系や生物種保全の重要性を理解できる。	確認テスト ワークシート	・地球上を広く覆っている植物について、環境条件の違いによって異なるバイオームが成立していることを理解する。 ・世界や日本のバイオームやその分布について理解するとともに、水平分布と垂直分布の類似性について気温と降水量という環境条件と関連付けて理解する。 ・植生が時間の経過によって遷移していくことを、植物種の多様性と関連付けて理解する。 ・生態系における生物間の関係性を理解し、生態系のバランスを保つためには生物の多様性が重要であることを理解する。 ・様々な環境問題について調べ、その結果に基づいて生態系への影響や解決策を考察し、他の生徒と話し合い、考えをまとめて発表することができる。 ・問題演習を通して、知識に基づき論理的に考察を行い解答できる。	・各設問等の問題文を正しく読み取り、自身の解答の根拠を自身の言葉で論理的に説明する。 ・環境問題について書籍や新聞、インターネット等を利用して情報の信頼性を考えながら調査ができる。またその結果を用いて他の生徒と話し合いを行い、意見を共有して自分の考えをまとめ、発表することができる。 ・分らないことなどを先生や周囲の生徒に質問、相談したり、他の生徒へと教えたりしながら問題演習に取り組む。	【理科（生物）】 【理科（地学基礎）】 【公民科（公共）】 【地理歴史科（地理総合）】 【家庭科（家庭基礎）】 【保健体育科（保健）】
			②　思考・判断・表現 ・知識に基づき、人間による生態系への攪乱の影響について考察し、解決策を考えたり話し合いをしたりして自分の考えをまとめ、発表することができる。 ・文章や図表などから必要な情報を読み取り、知識に基づいた論理的な考察を行うことができる。	確認テスト 課題への取り組み ワークシート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・地域による植生の違いや、時間の経過による植生の遷移、生態系内における生物種間の関係性や生態系と人間生活とのかかわりについて興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	ワークシート 課題への取り組み 振り返りシート			
12月 ～1月	まとめ	8	①　知識・技能 １年間の学習を通して「生物基礎」の科目において獲得した知識を複数の分野にまたがって複合的に活用することができる。	確認テスト ワークシート	・ジャンルごとに分けて学習してきた内容を複合的に活用することができる。 ・演習を通して、知識に基づき論理的に考察を行い解答できる。	・各設問等の問題文を正しく読み取り、自身の解答の根拠を自身の言葉で論理的に説明する。 ・分らないことなどを先生や周囲の生徒に質問、相談したり、他の生徒へと教えたりしながら問題演習に取り組む。	
			②　思考・判断・表現 ・１年間の学習を通して獲得した知識を複合的に用いて論理的な考察を行うことができる。 ・文章や図表などから必要な情報を読み取り、知識に基づいた論理的な考察を行うことができる。	確認テスト ワークシート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・これまでに学習した内容を用いて、授業や問題演習に主体的・積極的に取り組むことができる。	ワークシート 課題への取り組み 振り返りシート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
生物	5	全日制・普通科・3学年・理系	生物（実教出版）
科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 5月	1章　生物の進化 1節　生命の起源と細胞の進化 2節　遺伝子の変化と進化のしくみ 3節　生物の系統と進化	40	①　知識・技能 ・生命の誕生に関する仮説について理解している。 ・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。 ・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・生命の起源、および生物の進化の過程を地球環境の変化にも触れながら、その概要をつかむ。 ・遺伝子の変化を引き起こす突然変異について理解さする。 ・生物の変異、進化の証拠やその要因、進化説などを理解する。 ・集団遺伝については、平易な初歩的事項を理解する。 ・分子進化のしくみについては簡単に把握する。 ・生物の系統については、細胞の構造、細胞の構成成分、形態、生殖、発生、遺伝子の構造など生物のもつ様々な特徴の比較から生物の系統関係が明らかになったことを具体的な例を通して探究する。 ・ドメインから種のレベルに至る分類の階層や、種の命名法についても具体的な例を示して把握する。	ペアワーク グループワーク 口頭発表	家庭 保健体育
			②　思考・判断・表現 ・地質時代における生物の変遷を、化石にもとに考察し、環境の変化との関連を探究できる。また、霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。 ・生物分類の必要性を理解し、その歴史的大分類の視点がどこに置かれていたのかを把握しようとする。 ・現在の生物分類と系統を理解しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
6月 7月	2章　生物現象と物質 1節　細胞と分子 2節　生命現象とタンパク質 3節　代謝	40	①　知識・技能 ・タンパク質の基本的な構造・性質についての学習を手がかりとして、酵素作用や免疫現象・筋収縮などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解している。 ・エネルギーの利用に際して、ＡＴＰがエネルギーの通貨として働いていることを理解している。 ・生命活動に必要なエネルギーを．呼吸や光合成からとり出すしくみを理解している。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・タンパク質の多様性および特異性に基づく機能には、タンパク質分子の立体構造が深く関わっていること、タンパク質の立体構造はそのアミノ酸配列によって決まることなどを理解する。 ・生物にみられる代謝が酵素の触媒作用によって進められていることを理解する。 ・酵素はタンパク質からできていること、生物体内の化学反応の触媒として働いていること、細胞内外の様々な生物現象と関わっていることを理解する。 ・同化は主に光合成の反応を、異化は呼吸の反応を理解する。 ・光合成は光エネルギーを化学エネルギーに変換して無機物から有機物を合成する反応であること、呼吸は有機物からエネルギーを解離してATPを生成する反応であることなどを通して同化と異化の意義を理解する。	ペアワーク グループワーク 口頭発表	家庭 保健体育
			②　思考・判断・表現 ・生物体にみられる様々な働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。 ・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・DNAが遺伝子として働くしくみや、RNAがタンパク質合成に関与しているしくみを理解しようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			

9月 10月	第3章　遺伝情報の発現と発生 1節　遺伝情報とその発現 2節　発生と遺伝子発現 3節　遺伝子を扱う技術	40	①　知識・技能 ・動物の配偶子のでき方を理解している。 ・発生のしくみについては、結果としてわかっていることを覚えているだけでなく、実験によって、そのしくみが次第に明らかになってきた過程を理解している。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・DNAの構造や複製、遺伝暗号、DNAの遺伝情報に基づくタンパク質の合成や形質発現などのしくみを理解する。 ・真核生物では、スプライシングによって遺伝子の数よりはるかに多い種類のタンパク質が合成されることを理解する。 ・発生の過程では代表的な動物としてカエルを例にあげ、ヒトについても基本的なしくみは同じであることを理解する。 ·発生のしくみについては、誘導現象など代表的な例について理解させ、実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程に重点をおいて探究的に考察する。 ・遺伝子組換えや組織培養、核移植、細胞融合などの技術が医療や有用物質の合成、作物の品種改良などに利用されていることを実例を通して把握する。	ペアワーク グループワーク 口頭発表	家庭 保健体育
			②　思考・判断・表現 ・生殖細胞がつくられる過程と意義を科学的に考察できる。 ・受精については、生殖細胞の合体により染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができる過程として理解しようとする。 ・発生の過程が、ヒトをはじめとした多くの生物に共通するものであることを実証的・論理的に分析し、総合的に考察し、表現することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解しようとする。 ·発生のしくみについては、誘導現象など代表的な例について理解させ、実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程に重点をおいて探究的に考察させる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
11月 12月	第4章　生物の環境応答 1節　動物の反応 2節　動物の行動 3節　植物の成長と環境応答	40	①　知識・技能 ・神経の構造と興奮の発生・伝導・伝達の関係の学習から、動物が能動的に外部環境に反応することを理解している。 ・脳などの中枢神経系の働きを学習したことで、脊つい動物のからだが巧妙に調節されていることを理解し、知識を身につけている。 ・　植物が外部の環境に影響されてみせるさまざまな現象を、屈性などの伸長成長や、発芽、花芽形成などの器官分化などの学習を通じて身につけている。 ・植物の場合は、植物ホルモンの働きなどによって、環境に対する反応や調節が行われることを具体的に理解している。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・刺激を受容する器官、神経の興奮とその伝達、中枢神経系の働き、動物の反応について知らせ、刺激の受容から反応までの関連を把握する。 ・神経の興奮では、興奮の発生・伝導・伝達を理解する。 ・脳のつくりでは、大脳、間脳、中脳、小脳、延髄に分けられることや灰白質や白質などについて理解する。 ・動物の行動は、代表例を探究的に考察する。 ・環境によって制御される、植物の伸長成長、種子の発芽や花芽の形成などの現象を理解する。 ・光屈性のしくみの解明を通じて、それらの現象が環境との関連でどのように制御されているのか、それが解明されてきた過程を重視して、探究的に考察する。	ペアワーク グループワーク 口頭発表	家庭 保健体育
			②　思考・判断・表現 ・各受容器の構造と機能との関係、興奮の伝導や伝達のしくみ、興奮の神経における伝達経路について、 整理して述べることができる。 ・骨格筋が収縮するしくみを理解し、筋収縮に必要なエネルギーがどのように供給されるのかについて考察できる。 ・学習による行動の発達と神経系の発達との関係を説明することができる。 ・伸長成長や、発芽、器官分化などの現象が巧妙に制御されていること、それらがさまざまな実験によって明らかにされてきたことを理解し、科学的に判断できる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・動物は環境の変化を受容する受容器をもつとともに、神経系など生物体のもつ巧みな制御機構や調節のしくみによって、安定した内部環境を維持していることを意欲的に理解し、探究しようとする。 ・動物の行動は、刺激の受容にはじまる一連のしくみによって成立していることを関心をもって理解しようとする。 ・　植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し、身につけようとする。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
1月	第5章　生態と環境 1節　個体群と生物群集 2節　生態系	15	①　知識・技能 ・生物の集団を個体群としてとらえ、そこにみられる現象や法則性を理解している。 ・生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査	・生物と環境との関わりについて理解する。 ・自然界における生物についての見方や考え方を身につける。 ・密度効果がない場合とある場合とでは個体群の成長の様式に違いがあることを理解する。 ・安定した個体群が維持されるしくみについては、個体群内部におけるしくみや他の個体群との関係を適応戦略などの観点から理解さする。 ・生物群集を構成する様々な個体群がそれぞれ特有の生態的地位を占め、相互に関係を保つことにより、生物群集が維持されていることを理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶ。 ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。	ペアワーク グループワーク 口頭発表	家庭 保健体育
			②　思考・判断・表現 ・生物の生活は環境と深い関わりをもっていることを、身近な現象についてとり上げながら、すでに学習した知識を活用して考えようとする。 ・異なる２種の個体群間の関係、さらに、より多くの個体群から形成されている生物群集の構造や働きとその変動を明らかにできる。 ・生態系の構造や働きを、物質循環・エネルギーの流れの観点から考察し、表現することができる。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・生物は生物集団として、無機的環境やほかの生物集団とのあいだでさまざまな関係をもちながら生活していることを理解することによって、環境と生物の関係を総合的にとらえようとする。 ・それまでに学習した内容から、人類の活動と自然破壊の関連性について考察し、自然保護・環境保全の意義を実感として理解しようとするとともに、主体的に行動できるような意識をもつ。	・授業の取り組み ・課題の取り組み ・小テスト ・定期考査			
指導時間数の計		175					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
地学基礎	2	全日制・普通科・3学年	高等学校 地学基礎（第一学習社）
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる、科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 ～ 4月 4週	第1章 地球のすがた 第1節 地球の概観	5	①　知識・技能 地球の層構造（地殻・マントル・外核・内核）と、各層の特徴を理解し、知識を身に付けている。 ②　思考・判断・表現 地球を構成する元素を示すグラフを判読し、地球内部の構成物質の違いについて考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 地球内部の層構造や各層を構成する物質の違いに関心をもち、地球内部のなりたちを意欲的に探究しようとしている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査 ・授業態度 ・実験報告書 ・授業態度 ・課題提出	・地球の形や大きさについて、エラトステネスの測定方法を学習する。 ・地球が赤道方向に膨らんだ回転楕円体であることを学習する。 ・地球内部の層構造について、構成する物質や性質の違いなど、各層の特徴を理解する。 ・地球表層部のかたさによる区分とマントル内の動きについて学習する。	・エラトステネスが地球の大きさを測定した方法について説明する。 ・地球内部の層構造を、構成物質と変形のしやすさのそれぞれの観点から説明する。	数学
4月 4週 ～ 5月 3週	第1章 地球のすがた 第2節 プレートの運動	5	①　知識・技能 3種類のプレートの境界、断層の種類や褶曲について、形成される条件などの特徴を理解し、知識を身に付けている。 ②　思考・判断・表現 プレートの境界で形成される大地形や地殻変動について、プレートの運動に関連させて考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 プレートの境界や 断層の形式と褶曲について関心をもち、地殻の変動のようすを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査 ・授業態度 ・実験報告書 ・授業態度 ・課題提出	・世界のプレートの分布を学び、海洋と大陸でのプレートの厚さや動きの違いを理解する。 ・プレートの3つの境界と、それぞれの境界に見られる地形の特徴を学習する。 ・断層や褶曲の形成状況について考え、これをプレートの動きとの関連で理解する ・プレートの動きに伴って、地下で形成された変成岩を中心に、岩石の変成作用について学習する。 ・造山帯の形成について考え、大陸地殻の形成・成長過程を学習する。	・プレートの運動と境界の関係、運動に伴って起こる地殻変動を説明する。 ・ホットスポットにより形成される火山・海山列とプレートの運動の関係を説明する。 ・プレート運動の原動力について説明する。	地理
5月 3週 ～ 5月 5週	第2章 地球の活動 第1節 地震	4	①　知識・技能 地震の発生と分布の特徴について理解し、知識を身に付けている。 ②　思考・判断・表現 世界の地震分布に関する資料を判読し、地震の分布の特徴を、地下のプレートと関連させて見いだすことができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 地震の発生と分布の特徴に関心をもち、地震のおこるしくみについてプレートの運動と関連させて、意欲的に探究しようとしている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査 ・授業態度 ・実験報告書 ・授業態度 ・課題提出	・地震の発生のしかたについて考え、世界の地震の分布の特徴を理解する。 ・地震波の特徴を学び、震源の決定のしかたを理解する。 ・日本付近の地震の分布とプレートとの関連や、日本付近で発生する地震のタイプについて学習する。 ・日本付近の地震について、プレートの運動と関連付けて、発生のしくみや特徴を学習する。	・地震発生のしくみを説明する。 ・地震波の性質や、震源決定の方法について説明する。 ・プレート境界と地震の関係について説明する。 ・日本付近で発生する地震の種類を説明です。	地理
6月 1週 ～ 6月 3週	第2章 地球の活動 第2節 火山活動	6	①　知識・技能 噴火のしくみ、火山噴出物の種類、噴火の様式とマグマの性質の関係について理解し、知識を身に付けている。 ②　思考・判断・表現 マグマの性質と噴火の様式や火山の形を示す表から、実際の火山について、その形とマグマの性質の関連を考察することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 火山噴出物の種類や火山の形に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査 ・授業態度 ・実験報告書 ・授業態度 ・課題提出	・世界の火山分布と日本の火山分布について学習する。 ・火山が形成されるしくみについて、プレートと関連付けて、地域の特徴などを理解する。 ・噴火のしくみや火山噴出物について学習する。 ・マグマの性質と噴火の様式、火山の形の関係について学習する。 ・火成岩のさまざまな産状や、観察される組織について学習する。 ・火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し、火成岩の分類について理解する。	・火山噴火のしくみを説明する。 ・マグマの発生や火山の分布がプレート運動に起因していることを説明する。 ・火成岩を構成する鉱物と、火成岩の分類について説明する。	地理
6月 3週 ～ 7月 2週	第3章 大気と海洋 第1節 地球のエネルギー収支	6	①　知識・技能 大気の組成と圧力、大気圏の構造や大気のエネルギー収支、温室効果、放射冷却について理解し、知識を身に付けている。 ②　思考・判断・表現 大気のエネルギー収支の図において、地球のエネルギー収支の平衡を数値で確認することができる。 ③　主体的に学習に取り組む態度 太陽放射と地球放射や大気のエネルギー収支に関心をもち、温室効果のはたらきについて意欲的に学習しようとしている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査 ・授業態度 ・実験報告書 ・授業態度 ・課題提出	・大気の組成や圧力を学習する。 ・高度の変化に伴う気温の変化と大気圏区分の関係を学習し、大気圏の構造を理解する。 ・大気中の水の変化について学習し、雲の発生と降水のしくみについて理解する ・太陽放射と地球放射について学習する。 ・地球のエネルギー収支や、温室効果や放射冷却について学習する。	・大気の層構造と各層の特徴について説明する。 ・雲ができるしくみを説明する。 ・地球のエネルギー収支の観点から、地球が太陽から受け取る熱の行方を説明する。 ・温室効果のしくみを説明する。	数学

7月 2週 ～ 9月 2週	第3章 大気と海洋 第2節　大気と海洋の運動	7	①　知識・技能 大気の大循環および、各地域での大気の動きを理解し、知識を身に付けている。 海流、深層水の大循環モデルを理解し、知識を身に付けている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査	・緯度ごとのエネルギー収支を学習し、南北の熱の輸送について理解する。 ・風がおこるしくみについて理解する。 ・低緯度地域の大気の大循環について理解する。 ・中緯度・高緯度地域の大気の大循環について理解する。 ・海水の塩分と温度について学習し、海洋の層構造を理解する。 ・海洋の表層の循環と深層に及ぶ循環について学習する ・エルニーニョ現象とラニーニャ現象について学習する。	・大気の大循環が生じるしくみと、それがもたらす効果について説明する。 ・温帯低気圧のはたす役割を説明する。 ・海流が生じるしくみと、熱輸送の観点から海流のはたす役割について説明する。 ・海洋の鉛直方向の循環が生じるしくみを説明する。	数学
			②　思考・判断・表現 緯度ごとのエネルギー収支を示すグラフを作成し、グラフから地球の南北の熱の輸送について考察することができる。海面水温の分布に関する資料から、分布の特徴を見いだすことができる。	・授業態度 ・実験報告書			
			③　主体的に学習に取り組む態度 大気の大循環に関心をもち、各地域での大気の動きについて意欲的に学習しようとしている。海洋表層の循環、深層に及ぶ循環について関心をもち、海水の役割について意欲的に学習しようとしている。	・授業態度 ・課題提出			
9月 3週 ～ 10月 1週	第4章 宇宙と地球 第1節 宇宙と太陽の誕生	8	①　知識・技能 宇宙の始まり、銀河系の構造、太陽の誕生過程やエネルギー源、現在の太陽についてについて理解し、知識を身に付けている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査	・宇宙の探究についての歴史を学習する。 ・ビッグバンや元素の誕生について学習し、宇宙の始まりを理解する。 ・恒星や銀河について学習し、銀河系の構造を理解する ・太陽の誕生について学習し、現在の太陽の特徴を理解する。 ・現在の太陽の表面や外層でおこっている活動について学習する。	・8つの惑星の特徴と、地球型惑星と木星型惑星の違いについて説明する。 ・太陽系の小天体の特徴を説明する。	
			②　思考・判断・表現 星団の観察を通して、星団の位置を確認し、恒星や銀河について理解を深めることができる。	・授業態度 ・実験報告書			
			③　主体的に学習に取り組む態度 宇宙と太陽の探究の歴史に関心をもち、宇宙と太陽の構造やその誕生過程について意欲的に探究しようとしている。	・授業態度 ・課題提出			
10月 1週 ～ 10月 4週	第4章 宇宙と地球 第2節 太陽系と地球の誕生	8	①　知識・技能 太陽系と地球の構造と誕生過程、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解し、知識を身に付けている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査	・太陽系、地球型惑星、木星型惑星の誕生過程について学習する。 ・太陽系の小天体について、形成過程や起源物質などの特徴を学習する。 ・地球型惑星と木星型惑星の環境や特徴について学習し、違いを理解する。 ・生命が存在する条件について学習し、地球だけに生命が誕生した理由を理解する。 ・原始地球の進化の過程について学習し、原始地球の環境変化を理解する。	・惑星の内部構造の違いを惑星の形成過程をふまえて説明する。 ・太陽系の惑星の比較から、地球に生命が存在できる理由について説明する。 ・銀河系の構造や太陽の位置について、天の川の見え方から説明する。 ・ビッグバンによる宇宙の誕生から、太陽や地球の誕生までの過程を説明する。	
			②　思考・判断・表現 太陽系の形成時の位置や質量などの違いによって、地球型惑星と木星型惑星の内部構造が違うことを考察できる。	・授業態度 ・実験報告書			
			③　主体的に学習に取り組む態度 地球を含む太陽系を構成する天体やその誕生過程に関心をもち、太陽系の成り立ちについて意欲的に学習しようとしている。	・授業態度 ・課題提出			
11月 3週 ～ 12月 1週	第5章 生物の変遷と地球環境 第2節 地球と生物の変遷	8	①　知識・技能 先カンブリア時代から新生代第四紀までの、地球と生物の変遷を理解し、知識を身に付けている	・発問評価 ・小テスト ・定期考査	・各時代の生物の地球環境と変遷を学習する。 ・冥王代～太古代の生物の出現について理解する。 ・原生代の大気の変化が地球環境や生命活動へ与えた影響を理解する。 ・カンブリア紀～デボン紀の生物の陸上進出に必要な環境を理解する。 ・石炭紀～ペルム紀の大気の変化が地球の環境に与えた影響を理解する。 ・古第三紀～新第三紀の人類の出現、第四紀の人類の進化について学習する。	・地球の歴史について化石からわかることを説明する。 ・地質年代の区分のしかたを説明する。 ・生物の進化と古生物の変遷について説明する。 ・古生物の変遷と地球環境の変化との関係について説明する。	地理
			②　思考・判断・表現 地球の酸素濃度や二酸化炭素濃度のグラフから、当時の環境や、生物の進化・絶滅について考察することができる。	・授業態度 ・実験報告書			
			③　主体的に学習に取り組む態度 地質時代における生物界の移り変わりのようすに関心をもち、地球の生い立ちを意欲的に探究しようとしている。	・授業態度 ・課題提出			
12月 2週 ～ 12月 3週	第6章 地球の環境 第1節 地球環境の科学	6	①　知識・技能 気候変動や地球温暖化の原因、地域による影響の違いを理解し、知識を身に付けている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査	・地球の気候変動や地球温暖化について学習し、地球温暖化による地球環境の変化や、人間生活との関わりを理解する。 ・オゾン層の変化について学習し、オゾンホールの形成と人間生活との関わりを理解する。	・エルニーニョのしくみと、それが気候に及ぼす影響について説明する。 ・大規模な火山噴火が気候に及ぼす影響について説明する。 ・人間活動によって起こる環境変化のしくみと、その影響について説明する。	地理
			②　思考・判断・表現 地球温暖化に関する資料を判読し、地球温暖化の原因や、影響を考察することができる。	・授業態度 ・実験報告書			
			③　主体的に学習に取り組む態度 地球の気候変動と環境への影響や人間活動との関わりに関心をもち、意欲的に学習しようとしている。	・授業態度 ・課題提出			
1月 1週 ～ 1月 4週	第6章 地球の環境 第2節 日本の自然環境	7	①　知識・技能 自然エネルギーや日本の資源について理解し、知識を身に付けている。日本の気象災害や土砂災害について理解し、その対策などの知識を身に付けている。	・発問評価 ・小テスト ・定期考査	・日本における自然の恩恵について学習し、日本の資源について理解する。 ・日本付近の気団や四季の天気の特徴、日本で発生する気象災害を学習する。 ・土砂災害の発生形態による区分を学習する。 ・日本の気象災害や地震災害への対策について学習する。 ・液状化や津波の発生メカニズムについて学習する。 ・日本の火山災害とその対策について学習する。	・地形や水資源に関する日本の特徴を説明する。 ・地震や火山噴火、大雨による土砂災害の原因と対策について説明する。	数学
			②　思考・判断・表現 観測のデータをもとにして、身近な地域での災害を予測することができる。	・授業態度 ・実験報告書			
			③　主体的に学習に取り組む態度 自然の恩恵と日本の災害について関心をもち、資源としての利用方法と災害の対策を意欲的に学習しようとしている。	・授業態度 ・課題提出			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに，技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
体育	3(2)	全日制・普通科・3学年	

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに，自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第2週	体つくり運動	10 (7)	①　知識・技能 体つくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。 身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる。	・観察 ・学習カード	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（豊かなスポーツライフの設計の仕方） ・保健（精神疾患の予防と回復）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 体つくり運動に主体的に取り組むとともに，互いに助け合い高め合おうとすること，一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
5月 第3週 ～ 6月 第1週	球技 （ネット型） ・ソフトテニス ・バンポン	10 (7)	①　知識・技能 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（ペアワーク） ・計画の発表、実践（ペアごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
6月 第2週 ～ 6月 第5週	球技 〔ベースボール型〕 ・ソフトボール	12 (8)	①　知識・技能 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
7月 第1週 ～ 9月 第2週	水泳	12 (8)	①　知識・技能 技術の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐことができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成 ・計画の実践	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 水泳に主体的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			

9月 第3週 ～ 9月 第4週	体育理論	6 (6)	①　知識・技能 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。	・観察 ・小テスト	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・事実を正確に理解し伝達する。 ・他者の意見を解釈し自分の意見を深める。	
			②　思考・判断・表現 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて施行し判断するとともに他者に伝えている。	・観察 ・小テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組んでいる。	・観察 ・小テスト			
9月 第5週 ～ 11月 第1週	球技 (ネット型) ・バレーボール ・バドミントン	18 (10)	①　知識・技能 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
11月 第2週 ～ 12月 第2週	陸上競技 ・長距離走	10 (8)	①　知識・技能 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、協議会の仕方などを理解している。 記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、ペースの変化に対応して走ることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（長距離走） ・学習カード作業 ・個人目標設定	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に主体的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
12月 第3週 ～ 2月 第2週	球技 〔ゴール型〕 ・サッカー	18 (12)	①　知識・技能 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防することができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
2月 第3週 ～ 3月 第3週	球技 (ネット型) ・ソフトテニス ・パンポン	9 (6)	①　知識・技能 技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解している。 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保しようとしている。	・観察 ・学習カード			
指導時間数の計		105 (70)					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
美術探究	2	全日制・普通科・3学年	美術史のきほん（日文）
科目の目標	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 ○造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値感を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ○主体的に美術の創造な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化に親しみ,心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 ～ 6月 3週 9日	上げ写し （鳥獣戯画）	18	①　知識・技能 上げ写しで必用な技法の手順や道具の用途・特性を理解し、技法と道具を使い分けて表現している。 ②　思考・判断・表現 作者がどのような工夫と表現で描いたのか模写を通して感じ取り、自分なりに解釈し表現している。 ③　主体的に学習に取り組む態度 鳥獣戯画絵巻と模写について関心を持ち、主体的に制作に取り組もうとしている。	実技（上げ写し・裏打ち） 作品 取り組み姿勢 作品 取り組み姿勢 ワークシート	鳥獣戯画絵巻と上げ写しの技法について学ぶ。 上げ写し 水干絵の具 裏打ち 上げ写し技法で模写する。 裏打ちをして作品を仕上げる できあがった作品の鑑賞会をする。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな特徴があるか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	地歴公民
6月 4週 ～ 10月 1週 9日	ボックスアート （思い出の中の風景）	18	①　知識・技能 素材の特徴を生かし、構図や色彩の効果によって、豊かな空間を表そうとしている。 ②　思考・判断・表現 さまざまな表現素材を使ってみるなど、イメージに合った表現を追求し工夫しようとしている。 ③　主体的に学習に取り組む態度 積極的に自身の主題を掘り起こし、制作しようとしている。	ワークシート 作品 取り組み姿勢 ワークシート 作品 取り組み姿勢 ワークシート	参考作品を鑑賞しながら制作内容について学ぶ。 ワークシートを基にアイデアスケッチを行う。 アイデアスケッチをトレースし、箱の内部、塩ビ板にアクリル絵の具で彩色する。 自他の作品を鑑賞する。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな工夫や思いが込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
10月 2週 ～ 1月 2週 9日	巨匠の次回作 （オマージュ作品）	18	①　知識・技能 構図や形、色、タッチに注目し表現のよさや工夫を感じ取り、別作品として再現する。 ②　思考・判断・表現 作品の主題や表現方法の特徴を分析し、自分なりの解釈で作家の作品を創造する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 作家独自の表現の魅力に気づき、それを生かした表現を行おうとしている。	ワークシート 実技（構図・色彩・タッチ） 作品 取り組み姿勢 エスキース ワークシート 作品 取り組み姿勢 ワークシート	参考作品を鑑賞し、意見を交わす。 人工知能が描いたレンブラントの自画像 作家の特徴からその作家が新作を描くとしたらどんな作品を描くか自分なりの視点で主題を設定する。 設定した主題でエスキースをする。 エスキースを基に作品を制作する。	話し合い活動 （肯定・否定、それぞれについての意見が言えるよう考えさせる） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	地歴公民
1月 3週 1日	鑑賞 （美術探求学習のまとめ）	2	①　知識・技能 造形の要素の働きを理解している。 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ②　思考・判断・表現 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから伝統や文化の価値を感じ取り、美術文化の継承、発展、創造することの意義について考え、見方や感じ方を深めている。 ③　主体的に学習に取り組む態度 主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造な諸活動に取り組もうとしている。	ワークシート 取り組み姿勢 ワークシート 取り組み姿勢 ワークシート	これまでの美術探究学習を振り返り、学んだこと、制作した作品等について話し合う。	話し合い活動	
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （書道探究）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） （2）創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） （3）生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
書道探究	2	全日制・普通科・3年	なし

科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） （2）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） （3）主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 8月	漢字仮名交じりの書	30	①　知識・技能 ・現代の社会生活に生きる様々な書の表現とその要素について理解を深める。 ・書の伝統を踏まえ、目的や用途、意図に応じて創造的に表現する技能を身につける。	臨書作品 創作作品 ワークシート	○説明を聞く ○漢字仮名交じりの書の作品鑑賞 ○漢字仮名交じりの書の臨書 ○漢字仮名交じりの書の創作 ○相互批評	・鑑賞後の意見共有 ・相互鑑賞、相互批評	地歴科
			②　思考・判断・表現 ・主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求する。	臨書作品 創作作品 ワークシート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求する態度を養う。	臨書作品 創作作品 ワークシート 学習に取り組む様子			
9月 ～ 11月	身の周りの書	20	①　知識・技能 ・現代の社会生活に生きる様々な書の表現とその要素について理解を深める。 ・書の伝統を踏まえ、目的や用途、意図に応じて創造的に表現する技能を身につける。	臨書作品 創作作品 ワークシート	○説明を聞く ○身の周りの書を探し、鑑賞する ○看板・パッケージの書の創作 ○相互批評	・鑑賞後の意見共有 ・相互鑑賞、相互批評	地歴科
			②　思考・判断・表現 ・主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求する。	臨書作品 創作作品 ワークシート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・主体的な構想に基づく個性的、創造的な表現を追求する態度を養う。	臨書作品 創作作品 ワークシート 学習に取り組む様子			
11月 ～ 1月	卒業制作	20	①　知識・技能 ・書の伝統的な表現を踏まえ、意図や目的に基づいて、効果的かつ創造的に表現するための技能を身に付ける。	臨書作品・創作作品	○説明を聞く ○作品制作の構想を練る ○臨書する作品についての調べ学習 ○臨書作品制作 ○創作作品制作 ○相互批評 ○作品の表具	・制作した作品について、発表する ・相互に作品を鑑賞して批評し合う	地歴科・美術
			②　思考・判断・表現 ・書の美しさやよさを感受し、意図に基づいて効果的かつ創造的に表現を工夫する資質・能力を身に付ける。	臨書作品・創作作品 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・書の創造的な諸活動に主体的に取り組む態度を養う。	レポート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画 （教科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○ 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家 族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を 主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ○ 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察 したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見 通して生活の課題を解決する力を養う。 ○ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
家庭探究	2	全日制・普通科・3学年(文系)	「生活学Navi資料＋成分表2023」（実教出版）

科目の目標	○衣生活・食生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解に基づいて、さらに深く探究し、それらに係る技能を身に付けるよ うにする。 ○ 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ○ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとすると ともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 5月 6月 7月 14週 28日	衣生活分野探究 ①衣服の起源・衣服の歴史・日本の衣服文化・世界の衣服文化	4	① 知識・技能 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、被服の構成・被服材料の種類や特徴・被服製作などについて探究し、関連する技術を身に着けるようにする。 ・ 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	レポート 作品	・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、構造についても学ぶ。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。	自分の意見の発表	地歴公民科
	②衣服の機能・性能	5	② 思考・判断・表現 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。生活の中での被服製作やデザインに関する課題について探究し、生活の中で合理的かつ創造的に解決する力を養う。	レポート 振り返り	・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・被服材料・衣服の性能と改善について学ぶ。 ・被服材料の加工について学ぶ。	グループでの話し合い（快適な衣服について）	理科
	③衣服の入手から 再資源化 衣服の手入れ	6			・衣服の入手から処分までの流れの中で、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学び実践する。	グループでの話し合い 実験・実習（界面活性剤のはたらき、しみ抜き、染色）	理科
	④洋服と和服の構造 衣服製作	13	③ 主体的に学習に取り組む態度ついて 衣生活の充実向上を目指して探究し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、課題に主体的かつ共同的に取り組むもうとしている。	レポート 学習の取り組み	・洋服と和服の違いを考える。 ・和服の構造について学び、浴衣を製作する。 ・浴衣の着つけについて学ぶ。	製作実習（教えあい） 着装（教えあい）	
9月 10月 11月 12月 1月 21週 42日	食生活分野探究 ①日本の食文化について	7	① 知識・技能 ・日本と世界の食文化について歴史や調理の特性などについて探究し、栄養の特徴や食品の栄養的特質、調理方法などについて理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な知識・技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	レポート 実技テスト	・日本の食文化形成を知り，郷土料理について探究する。	レポートの発表	地歴公民科
	②伝統的な食生活について	14			・だしなどの日本の伝統的食文化についてその歴史や製造過程について探究し、実践する。	・実践発表	理科
	③食生活をグローバルに考える	10	② 思考・判断・表現 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について探究し、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	レポート 振り返り	・日本と世界の食分野の違いについて探究する。 ・異なる食文化を体験する。	レポートの発表	地歴公民科
	④これからの食生活について考える	11	③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康・環境について探究し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	レポート 学習の取り組み	・自分たちの食について考え、より良い食生活とは何か探究し、実践する。 ・食品の自給率や、環境に配慮した食生活（食品ロス等）について考える。 ・簡単でエコな料理を探究する。	自分の意見の発表	理科 地歴公民科

指導時間数の計	70

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （外国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校
教科の目標	○現代社会に関するトピックについて英語で理解することが出来る。（知識及び技能） ○現代社会に関するトピックについて主体的に考え、それらを英語で論理的に説明できる。（思考力、判断力、表現力等） ○多様化する社会に関心を持ち、常に自らの生き方を探究することができる。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
英語コミュニケーションⅢ	4	3学年	MY WAY English CommunicationⅡ（三省堂） MY WAY English CommunicationⅢ（三省堂）
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第１款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第１款の（3）に示す資質・能力を育成する。 読むこと ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4	L9 The World Poorest President L10 Living in an E-Society	14	人類の幸福について考えを深め、持続可能な社会について考察する。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	地歴・公民科
5	Unit 1 Strategy 1 Unit 2 L1 "Priceless" Café、"Priceless" Community	14	必要な情報を聞き取る、読み取る。 社会における相互扶助の在り方について考える。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	地歴・公民科、理科
6	Unit 1 Strategy 2 Unit 2 L2 Nihonium	15	意味のまとまりごとに理解する。 新元素ニホニウムについて学び、科学分野への関心を高める。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	家庭科、理科
7	Unit 1 Strategy 3 Unit 2 L3 Tea in Desert Climates	17	キーワードや内容語から概要を把握する。 未知の世界の文化・習慣について認識する。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	理科、芸術科
9	Unit 1 Strategy 4 Unit 2 L4 The Benefits og Origami	14	視覚情報を利用して聞き取る、読み取る。 日本の伝統的な娯楽を通して、その可能性について考える。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	公民科、理科
10	Unit 1 Strategy 5 Unit 2 L5 The Mysteries of English Spelling	17	論理の展開を把握する（列挙・例示）。 英語の綴りと発音の関係性を学び、言語についての関心を高める。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	理科
11	Unit 1 Strategy 6 Unit 2 L6 A New Discovery in the Nasca Lines	17	論理の展開を把握する（原因・結果）。 ナスカの地上絵について知り、AIの可能性について考察する。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	家庭科、地歴・公民科
12	Unit 1 Strategy 7 Unit 2 L7 Today's Trash is Tomorrow's Treasure	17	話の要点を理解する。 ごみ問題について知り、よりよい社会のために必要なことを考える。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	地歴・公民科
1	Unit 1 Strategy 8 Unit 3 L8 Nap Time at School	15	トピックについての利点と欠点を整理する。 話者や筆者の意図を推測する。	やり取り、発表。	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	理科
指導時間数の計		140				

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （外国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校
教科の目標	○現代社会に関するトピックについて英語で理解することが出来る。（知識及び技能） ○現代社会に関するトピックについて主体的に考え、それらを英語で論理的に説明できる。（思考力、判断力、表現力等） ○多様化する社会に関心を持ち、常に自らの生き方を探究することができる。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理・表現Ⅱ	2	全日制・普通科・3学年（文系一般）	My WAY　Logic and Expression Ⅱ （三省堂）

CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	話すこと〔やりとり〕（SI） ： 身近な話題について聞いた内容に関して、質問をしたり適切に答えたりできる。 話すこと〔発表〕（SP） ： 自分に直接関わりのある話題や、社会的な話題について、補助的な手段を用いながら基礎的な表現を用い説明できる。 書くこと（W） ： 自分の身の回りの出来事や社会的な話題について、根拠に基づいて文章を書ける。（80words程度）

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	Lesson 8 Language and Society	8	・イギリスとカナダで使われる英語の違いについて、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うために多様な語句や文を身に着ける。 ・もし○○がなかったら　というタイトルで、情報や自分の考えを詳しく伝えるために多様な語句や文を身に着ける。	・外国について、仮定法や旅行先でできることを表す表現などを用いて、情報や自分の考え、自分の考え、気持などを詳しく伝え合う。 ・もし○○がなかったら　というタイトルで、仮定法の様々な表現やいろいろな出来事を表す表現などを用いて、自分の考えを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える。	・活動の観察 ・評価問題 ・プリントの取り組み状況	公民
5月	Lesson 9 Send Our Love to the World	8	・世界の貧困問題について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うために多様な語句や文を身に着ける。 ・食の不均衡の問題について情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うために多様な語句や文を身に着ける。	・悩み事について、否定の表現やいろいろな経験・物事を説明する表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う。 ・社会問題について、代名詞を使った表現や世界の格差を表す表現などを用いて、情報や自分の考えを整理し、論理の構成や展開を工夫して書く。	・活動の観察 ・評価問題 ・プリントの取り組み状況 パフォーマンステスト（話すこと（発表））	地理・家庭科
6月	Lesson　10 Follow in Our Hero's Footsteps	8	・医師の中村哲氏について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うために多様な語句や文を身に着ける。 ・中村氏の功績について幸福・ストレスについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い，自分のことを伝え，相手の言うことを理解しようとする姿勢がみられる。	・調べ学習で調べた事柄について、無生物主語構文や物事の調べ方を表す表現などを用いて、情報を即興で詳しく伝え合う。 ・自分の関心のある人物について、thatを使った表現や人物を説明する表現などを用いて、情報や自分の考えを整理し、詳しく紹介する。	・活動の観察 ・評価問題 ・プリントの取り組み状況	家庭科
7月	4技能対応総合問題集 Tetra 3 UNIT1-2	6	長文の概要把握 情報検索 分詞の後置修飾／比較表現 省略／as sonn as S can	会話を聞いて質問の答えを選ぶ。 写真・イラストの描写を聞き取る。 インターネットショッピングに関する英作文 音読	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	公民
9月	4技能対応総合問題集 Tetra 3 UNIT3-5	8	Eメールの読み取り 長文の概要把握 情報検索 名刺を使った表現／無生物主語 長い主語	会話を聞いて質問の答えを選ぶ。 写真・イラストの描写を聞き取る。 海外旅行に関する英作文 Eメールの返信 自分の意見を述べる	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	地理・政治経済
10月	4技能対応総合問題集 Tetra 3 UNIT6-8	8	評論文の読み取り 長文・短文・会話文の読み取り Eメールの読み取り 不定詞の意味上の主語／知覚動詞	会話を聞いて質問の答えを選ぶ。 写真・イラストの描写を聞き取る。 幼少期からの英語教育に関する英作文 イラスト・チラシを見て質問に答える	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	公民
11月	4技能対応総合問題集 Tetra 3 UNIT9-11	8	評論文の読み取り 長文・短文・会話文の読み取り 情報検索 最上級表現の用法	会話を聞いて質問の答えを選ぶ。 写真・イラストの描写を聞き取る。 コンビニ24時間営業に関する英作文 4コマ漫画のストーリーを話す	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	政治経済
12月	4技能対応総合問題集 Tetra 3 UNIT12-13	6	Eメールの読み取り 長文の概要把握 情報検索 原級比較／助動詞＋受動態	会話を聞いて質問の答えを選ぶ。 写真・イラストの描写を聞き取る。 新聞に関する英作文 イラスト・チラシを見て質問に答える	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	政治経済
1月	4技能対応総合問題集 Tetra 3 UNIT14-15	6	評論文の読み取り 長文・短文・会話文の読み取り 情報検索 関係代名詞／否定形主語／過去完了	会話を聞いて質問の答えを選ぶ。 写真・イラストの描写を聞き取る。 環境に関する英作文 4コマ漫画のストーリーを話す	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト）	地理・公民
指導時間数の計		66				

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （外国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○現代社会に関するトピックについて英語で理解することが出来る。（知識及び技能） ○現代社会に関するトピックについて主体的に考え、それらを英語で論理的に説明できる。（思考力、判断力、表現力等） ○多様化する社会に関心を持ち、常に自らの生き方を探究することができる。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理・表現Ⅲ	2	全日制・普通科・3学年	MY WAY Logic and Expression Ⅲ（三省堂）
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	話すこと[やり取り]：日常的な話題や社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、やり取りすることができる。 話すこと[発表]：日常的な話題や社会的な話題について、複数の資料を活用しながら、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝えることができる。 書くこと：日常的な話題や社会的な話題について、複数の資料を活用しながら、自分の考えや気持ちを多様な語句や文を用いて、文章にまとめることができる。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	Lesson1 Survey Results	6	学校生活／発表といった場面での表現活動において、様々な動詞の種類について学ぶ。	説明する／報告する／提案する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（課題テスト）	
5月	Lesson2 Writing an E-mail	6	社会生活／電子メールのやり取りといった場面での表現活動において、時勢について学ぶ。	説明する／質問する／依頼する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期考査、課題テスト）	情報
6月	Lesson 3 Writing a Blog	6	社会生活／ブログやSNSへの書き込みといった場面での表現活動において、助動詞の使い方にについて学ぶ。	報告する／説明する／提案する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期考査、課題テスト）	情報
7月	Lesson 4 Describing Activities	6	社会生活／地域での活動といった場面での表現活動において、不定詞・動名詞の違いや用法について学ぶ。	紹介する／描写する／説明する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（課題テスト）	公共
9月	Lesson 5 Suggesting What to Buy	8	学校生活／日常生活といった場面での表現活動において、分詞の用法、分詞構文の使い方について学ぶ。	推薦する／説明する／理由を述べる	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（課題テスト）	家庭科
10月	Lesson 6 Making a Proposal	6	社会生活／地域での活動といった場面での表現活動において、比較表現について学ぶ。	提案する／説明する／主張する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期考査、課題テスト）	
11月	Lesson 7 Making a Speech 共通テスト演習	8	学校生活／スピーチといった場面での表現活動において、関係詞の用法について学ぶ。	事実・情報を伝える／提案する／説明する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（課題テスト）	国語
12月	Lesson 8 Witing an Invitation 共通テスト演習	6	社会生活／メッセージといった題材での表現活動において、仮定法の用法について学ぶ。	誘う／事実・情報を伝える／説明する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（課題テスト）	
1月	Lesson 9 Suggestiong a Solution	6	ディベートのフォーマットで社会生活における問題点について議論する中で、名詞や代名詞の扱い方について学ぶ。	提案する／事実・情報を伝える／説明する／主張する／質問する	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期考査、課題テスト）	公共
指導時間数の計		58				

茨城県立多賀学校　年間指導計画 （外国語科）

学校番号 6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○現代社会に関するトピックについて英語で理解することが出来る。（知識及び技能） ○現代社会に関するトピックについて主体的に考え、それらを英語で論理的に説明できる。（思考力、判断力、表現力等） ○多様化する社会に関心を持ち、常に自らの生き方を探究することができる。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
英語探究	2	全日制・普通科・3年（文系選択および文系特進）	Reading Explorer 1A （Cengage Learning）
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	聞くこと（L） ：現代社会や専門分野に関するトピックについて説明された内容について，その内容を理解できる。 読むこと（R） ：現代社会に関する多様なトピックについてかかれた長めの英文（600words程度）を一読し，文章の概要や重要箇所，展開や構成などを判断できる。 話すこと〔やりとり〕（SI） ：現代社会に関するトピックについて，問われた質問に詳しく答えられる。 話すこと〔発表〕（SP） ：現代社会に関するトピックについて，理由や例を示しながら自分の考えを説明できる。 書くこと（W） ：現代社会に関するトピックに関して、複数の理由や例を含めて考えを構成し，論理的に説明できる。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 5月	Unit1 Amazing Animals	10	様々なイルカやタコなどの海洋生物に関する説明文を読んだり聞いたりしたことをもとに、自分の考えとその理由を書いて伝えることができる。	・英文の主題・概要について読み取る（スキミング） ・主題について批判的に考え、自分の考えに反映する ・接尾辞および語形変化について理解する	知：定期テスト 思：課題提出（ライティング） 態：見取り	生物 現代社会
6月 7月	Unit2 Travel and Adventure	12	北米やポリネシアなどの旅や発見に関する説明文を読んだり聞いたりしたことをもとに、人におすすめの場所を話して伝えることができる。	・英文の中から必要な情報を探し出す（スキャンニング） ・図と英文の情報を統合して理解し、自分の考えに反映する ・名詞・動詞双方に用いられる語、語のコロケーションについて理解する(1)	知：定期テスト 思：パフォーマンステスト（発表） 態：見取り	地理 現代社会 世界史 地学
9月 10月	Unit3 The Power of Music	12	音楽が身体や心にもたらす様々な効果に関する説明文を読んだり聞いたりしたことをもとに、その効果に関する自らの体験を書いて伝えることができる	・英文の中から詳細な情報や理由の説明を探し出す ・得た情報を自分の経験に関連させて考える(1) ・接尾辞、語のコロケーションについて理解する(1)	知：定期テスト 思：課題提出（ライティング） 態：見取り	音楽 保健体育
10月 11月	Unit4 Into Space	12	宇宙における生命の可能性に関する説明文を読んだり聞いたりしたことをもとに、宇宙での生活を想像し書いて伝えることができる	・コンセプトマップを使い文章の内容をまとめる ・得た情報をに関して考えを深め優先順位について考える 接尾辞、語のコロケーションについて理解する(2)	知：定期テスト 思：課題提出（ライティング） 態：見取り	物理 地学 現代社会 地理
11月 12月	Unit5 City Life	12	都市生活及びその多様な文化に関する説明文を読んだり聞いたりしたことをもとに、都市生活についての賛否を話し合うことができる	・図やグラフと英文の内容を統合し情報をまとめる ・得た情報について、賛成または反対の意見を述べる ・接尾辞、語のコロケーションについて理解する(3)	知：定期テスト 思：パフォーマンステスト（やりとり） 態：見取り	現代社会 地理 家庭
12月 1月	Unit6 Backyard Discoveries	12	様々な動植物に関する説明文を読んだり聞いたりしたことをもとに、科学プロジェクトを計画し、その概要を話して伝えることができる	・英文で書かれた情報の配列について理解する ・得た情報を分析し、自分の考えをサポートする情報として用いる ・句動詞やコロケーションについて理解する	知：定期テスト 思：パフォーマンステスト（発表） 態：見取り	生物
指導時間数の計		70				